

5.2 自然的状況

5.2.1 気象、大気質、騒音、振動、悪臭の状況

(1) 気象

① 降水量・気温・日照時間

計画地の最寄りの気象観測所は、図5.2.1-1に示す青梅地域気象観測所であり、令和4年における降水量、気温及び日照時間については表5.2.1-1(1)に、過去10年間における降水量、気温及び日照時間の推移については表5.2.1-1(2)に示すとおりである。

令和4年の年間降水量は1,291.0mm、日平均気温は15.0℃、最高気温は38.9℃、最低気温は-7.2℃、年間の日照時間は2,009.9時間を記録している。また、過去10年間の年間降水量は1,291.0～2,198.5mm、年平均気温は14.3～15.4℃、日照時間は1,671.7～2,121.4時間を記録している。

表5.2.1-1(1) 青梅地域気象観測所における気象の状況(令和4年)

月	降水量 (mm)				気温 (℃)					日照時間 (h)
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	
			1時間	10分間	日平均	日最高	日最低			
1	11.0	10.5	2.5	1.0	2.6	9.0	-3.2	13.1	-7.1	220.9
2	29.5	15.0	2.0	0.5	3.1	9.8	-2.9	17.3	-7.2	205.0
3	93.5	42.0	9.5	2.5	9.4	16.0	3.7	24.5	-1.6	190.0
4	177.5	45.0	14.0	3.5	14.3	20.0	9.1	28.4	-1.0	172.4
5	121.5	49.0	21.5	9.0	17.7	23.3	12.7	31.0	6.3	181.0
6	162.5	66.0	11.0	7.5	22.1	27.5	17.8	38.3	13.2	158.2
7	120.5	40.0	34.5	10.5	26.6	31.7	23.0	38.1	20.6	146.4
8	144.0	71.0	26.5	10.0	26.6	31.7	22.6	38.9	18.3	127.9
9	294.5	100.0	39.5	10.5	23.3	28.1	19.7	32.7	15.3	116.0
10	42.0 注1)	14.5 注1)	3.0 注1)	1.5 注1)	15.5	20.4	11.5	30.4	4.6	129.3
11	59.5	41.5	5.0	1.5	12.7	18.3	8.0	23.5	4.2	164.4
12	35.0	17.0	3.5	1.0	5.5	11.8	0.3	17.8	-4.3	198.4
年間	1291.0 注1)	100.0 注1)	39.5 注1)	10.5 注1)	15.0	20.6	10.2	38.9	-7.2	2009.9

注1)：統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けています(資料不足値)。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いませんが、極地、合計、度数等の統計ではその値以上(以下)であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合があります。

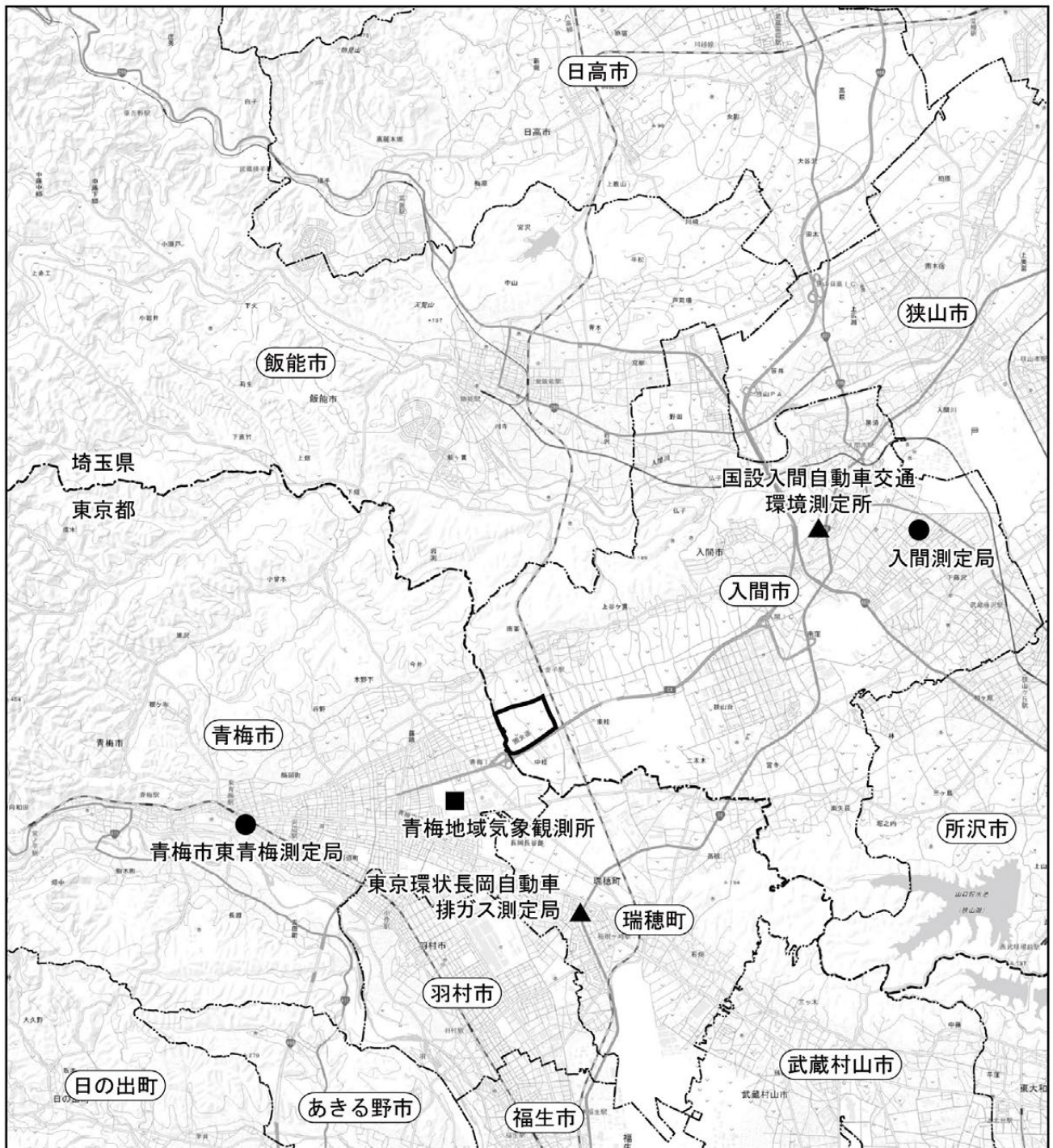
出典：「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ)

表5.2.1-1(2) 青梅地域気象観測所における気象の状況(平成25年～令和4年)

年	降水量 (mm)		気温 (°C)			日照時間 (h)
	合計	日最大	日平均	日最高	日最低	
平成25年	1324.0	117.0	14.7	20.4	9.8	2121.4
平成26年	1785.5	213.5	14.3	19.8	9.5	2057.7
平成27年	1528.0	202.5	15.0	20.2	10.4	1919.8
平成28年	1483.0	264.5	15.0	20.3	10.4	1797.4
平成29年	1412.5	152.0	14.4	20.2	9.5	1988.9
平成30年	1401.0	87.5	15.4	21.2	10.4	2076.5
令和元年	2198.5	384.5	15.0	20.5	10.3	1878.3
令和2年	1613.0	99.5	15.1	20.5	10.4	1860.3
令和3年	1363.5	60.5	15.0	20.7	10.1	1671.7 ^{注1)}
令和4年	1291.0 ^{注1)}	100.0 ^{注1)}	15.0	20.6	10.2	2009.9

注1)：統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けています(資料不足値)。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いませんが、極地、合計、度数等の統計ではその値以上(以下)であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合があります。

出典：「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ)



この地図は「地理院地図」（令和5年7月閲覧、国土地理院ホームページ）を使用して作成したものである。

凡例







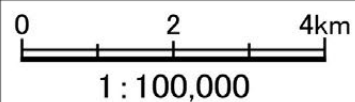
- | | | | |
|---|-------|---|-------------------------|
|  | : 計画地 |  | : 気象観測所 |
|  | : 都県界 |  | : 一般環境大気測定局 |
|  | : 市町界 |  | : 自動車排出ガス測定局・自動車交通環境測定所 |

図5.2.1-1 気象観測所及び大気汚染常時監視測定局



(1) 気象

② 風向・風速

計画地の最寄りの気象観測所は、図5.2.1-1に示す青梅地域気象観測所であり、令和4年における風向・風速については表5.2.1-2(1)に、風配図については図5.2.1-2に、過去10年間における風向・風速の推移については表5.2.1-2(2)に示すとおりである。

令和4年の年間最多風向は西、平均風速は1.1m/sを記録している。また、過去10年間においては、年間最多風向は南が多く、平均風速は1.1～1.2m/sを記録している。

表5.2.1-2(1) 青梅地域気象観測所における風向・風速の状況(令和4年)

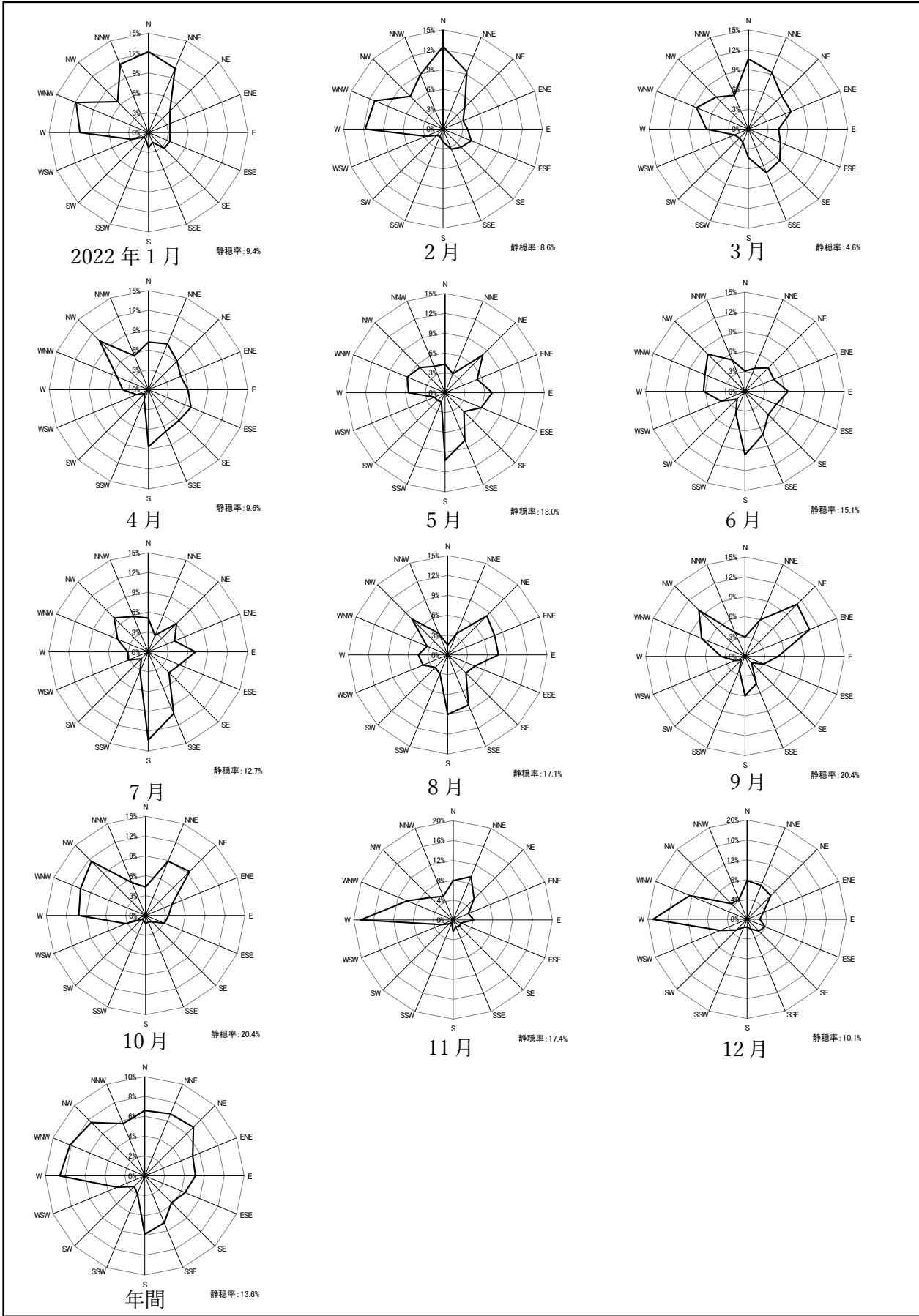
月	最多風向	平均風速 (m/s)	最大風速及びその時の風向	
			風速 (m/s)	風向
1	北	1.2	4.4	北北東
2	北	1.2	4.6	東北東
3	北	1.5	6.1	南
4	北西	1.3	4.9	南南東
5	南	1.1	4.8	南
6	南	1.1	5.1	南南西
7	南	1.1	4.3	南
8	南	1.1	5.3	南南東
9	北東	0.9	6.6	南
10	北西	0.7	3.9	東南東
11	西	0.8	4.8	南
12	西	1.1	4.6	西
年間	西	1.1	6.6	南

出典:「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ)

表5.2.1-2(2) 青梅地域気象観測所における風向・風速の状況(平成24年～令和3年)

年	最多風向	平均風速 (m/s)	最大風速及びその時の風向	
			風速 (m/s)	風向
平成24年	北	1.4	8.9	南東
平成25年	北	1.3	6.9	南
平成26年	北	1.2	6.9	東
平成27年	北西	1.2	6.9	北北東
平成28年	南	1.2	6.6	西北西
平成29年	南	1.2	11.6	南南東
平成30年	南	1.2	7.4	東
平成31年 令和元年	南	1.1	6.6	南
令和2年	北東	1.1	6.1	西
令和3年	北西	1.1	6.6	南

出典:「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ)



注) 静穏 : 0.5m/s 未満

出典 : 「過去の気象データ」 (気象庁ホームページ)

図5.2.1-2 青梅地域気象観測所における月別風配図(令和4年)

(2) 大気質

① 大気質の状況

計画地周辺の大気汚染常時監視測定局としては、図5.2.1-1に示すとおり、一般大気環境測定局である入間市入間測定局及び青梅市東青梅測定局が、自動車排出ガス測定局である国設入間自動車交通環境測定所（略称国設入間自排局）及び東京環状長岡自動車排ガス測定局（略称東京環状長岡自排局）が設置されている。令和3年度における各項目の測定結果は、表5.2.1-3(1)～(6)に示すとおりである。

二酸化窒素、二酸化硫黄、微小粒子状物質及び浮遊粒子状物質についてはいずれも環境基準を達成している。光化学オキシダント、非メタン炭化水素については、「炭化水素に係る指針」（昭和57年1月、中央公害対策審議会答申）を未達成である。

表5.2.1-3(1) 二酸化窒素の測定結果(令和3年度)

区分	測定局	年間平均値 (ppm)	日平均値の 年間98%値 (ppm)	環境基準 (達成○・非達成×)
一般環境大気測定局	入間市入間測定局	0.009	0.022	○
	青梅市東青梅測定局	0.006	0.012	○
自動車排出ガス測定局	国設入間自排局	0.015	0.027	○
	東京環状長岡自排局	0.015	0.027	○

備考：環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書」（令和3年度、埼玉県環境部）

「大気汚染常時測定局測定結果報告」（2021(令和3)年度年報、東京都環境局環境改善部）

表5.2.1-3(2) 二酸化硫黄の測定結果(令和3年度)

区分	測定局	年間平均値 (ppm)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	2日連続の 有無	環境基準 (達成○・非達成×)	
					長期的評価	短期的評価
一般環境大気測定局	入間市入間測定局	0.001未	0.001	無	○	○
	青梅市東青梅測定局	0.000	0.001	無	○	○

備考：環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書」（令和3年度、埼玉県環境部）

「大気汚染常時測定局測定結果報告」（2021(令和3)年度年報、東京都環境局環境改善部）

表5.2.1-3(3) 光化学オキシダントの測定結果(令和3年度)

区分	測定局	昼間の1時間値 が0.06ppmを超 えた時間数	昼間の1時間値 が0.12ppm以上 の時間数	環境基準 (達成○・非達成×)
一般環境大気測定局	入間市入間測定局	383	0	×
	青梅市東青梅測定局	383	1	×

備考：環境基準：1時間値が0.1ppm以下であること。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書」（令和3年度、埼玉県環境部）

「大気汚染常時測定局測定結果報告」（2021(令和3)年度年報、東京都環境局環境改善部）

表5.2.1-3(4) 浮遊粒子状物質の測定結果(令和3年度)

区分	測定局	年間平均値 (mg/m ³)	日平均値の 2%除外値 (mg/m ³)	2日連続の 有無	環境基準 (達成○・非達成×)	
					長期的評価	短期的評価
一般環境大気測定局	入間市入間測定局	0.011	0.026	無	○	○
	青梅市東青梅測定局	0.008	0.023	無	○	○
自動車排出ガス測定局	国設入間自排局	0.010	0.028	無	○	○
	東京環状長岡自排局	0.013	0.029	無	○	○

備考：環境基準：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書」(令和3年度、埼玉県環境部)

「大気汚染常時測定局測定結果報告」(2021(令和3)年度年報、東京都環境局環境改善部)

表5.2.1-3(5) 微小粒子状物質の測定結果(令和3年度)

区分	測定局	年間平均値 (μg/m ³)	日平均値の 2%除外値 (μg/m ³)	2日連続の 有無	環境基準 (達成○・非達成×)	
					長期的評価	短期的評価
一般環境大気測定局	入間市入間測定局	8.2	17.6	無	○	○
	青梅市東青梅測定局	9.1	20.6	無	○	○
自動車排出ガス測定局	国設入間自排局	8.5	20.0	無	○	○
	東京環状長岡自排局	8.9	19.0	無	○	○

備考：環境基準：1時間値の1日平均値が15μg/m³以下であり、かつ、1時間値が35μg/m³以下であること。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書」(令和3年度、埼玉県環境部)

「大気汚染常時測定局測定結果報告」(2021(令和3)年度年報、東京都環境局環境改善部)

表5.2.1-3(6) 非メタン炭化水素の測定結果(令和3年度)

区分	測定局	年間 平均値 (ppmC)	6時～9時 の測定日数 (日)	6時～9時 における 年平均値 (ppmC)	6時～9時 の3時間 平均値が 0.20ppmCを 超えた日数 (日)	6時～9時 の3時間 平均値が 0.31ppmCを 超えた日数 (日)	指針との比較 (達成○・ 非達成×)
	青梅市東青梅測定局	0.07	362	0.06	0	0	○
自動車排出ガス測定局	国設入間自排局	0.17	255	0.18	67	3	×

備考：指針：「炭化水素に係る指針」の内容は、午前6時から午前9時までの3時間平均値が0.20ppmCから0.31ppmCの範囲内又はそれ以下であること。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書」(令和3年度、埼玉県環境部)

「大気汚染常時測定局測定結果報告」(2021(令和3)年度年報、東京都環境局環境改善部)

② 苦情の状況

計画地が位置する入間市の「入間市統計書(令和3年度版)」によると、令和2年度の公害に関する苦情は286件であり、このうち大気汚染に関する件数は12件(全体の4.2%)となっている。

(3) 騒音

① 騒音の状況

計画地周辺における自動車騒音の面的評価結果は表5.2.1-4に、点的評価結果は表5.2.1-5に、自動車騒音の調査地点は、図5.2.1-3に示すとおりである。

自動車騒音の面的評価においては、都道5号線新宿青梅線や都道・県道179号所沢青梅線で、基準値の超過が多くなっている。

自動車騒音の点的評価においては、都道・県道179号所沢青梅線、一般国道16号、都道5号線新宿青梅線で、環境基準を超過している。

表5.2.1-4 自動車騒音の面的評価結果(令和元年度)

番号	路線名	評価区間		評価区間延長(km)	等価騒音レベル(dB)		評価対象住居等戸数	環境基準達成戸数			未達成戸数
		始点住所	終点住所		昼間	夜間		全日	昼間のみ	夜間のみ	
1	都道・県道63号青梅入間線	青梅市野上町2-267-1	青梅市・入間市境	3.3	-	-	765	765	0	0	0
2	都道44号	青梅市今井2丁目	青梅市小曾木1-3257	3.1	69	64	256	255	0	0	1
3	瑞穂富岡線	瑞穂町箱根ヶ崎545	瑞穂町長岡長谷部2	2.2	-	-	197	197	0	0	0
4	都道194号成木河辺線	青梅市塩船18-1	青梅市大門2-259	0.9	67	61	123	123	0	0	0
5	都道・県道179号	瑞穂町二本木445-1	瑞穂町箱根ヶ崎944	1.3	-	-	103	55	9	0	39
6	所沢青梅線	瑞穂町二本木935-4	瑞穂町二本木445-1	1.7	70	67	219	178	36	0	5
7	都道・県道219号狭山下宮寺線	瑞穂町駒形富士山420	瑞穂町二本木1037	1.1	-	-	165	163	2	0	0
8	一般国道16号	瑞穂町箱根ヶ崎864	瑞穂町駒形富士山424	0.8	70	67	11	11	0	0	0
9		瑞穂町箱根ヶ崎1268	瑞穂町箱根ヶ崎1113	0.9	55	54	27	22	5	0	0
10	都道5号線新宿青梅線	瑞穂町箱根ヶ崎東松原13-11	瑞穂町長岡下師岡372-4	1.6	72	66	336	273	0	7	56
11		瑞穂町箱根ヶ崎347-5	瑞穂町箱根ヶ崎東松原13-11	0.6	-	-	68	68	0	0	0
12		瑞穂町箱根ヶ崎495	瑞穂町箱根ヶ崎1277	0.5	-	-	46	46	0	0	0

備考：「全国自動車交通騒音マップ」に表示のある区間を抜粋した。

出典：「令和3年度 自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」（令和5年2月、埼玉県環境部）

「全国自動車交通騒音マップ」（国立環境研究所ホームページ）（令和元年度）

表5.2.1-5 自動車騒音の点的評価結果(令和元年度)

番号	路線名	測点地点住所	環境基準類型	車線数合計	幹線道路近接空間	等価騒音レベル(dB)				環境基準適合状況(達成○・非達成×)
						昼間	環境基準達成	夜間	環境基準達成	
1	都道44号瑞穂富岡線	青梅市藤橋1-343	B地域	2	含	69	○(70)	64	○(65)	○
2	都道194号成木河辺線	青梅市大門1-568	A地域	2	含	67	○(70)	61	○(65)	○
3	都道・県道179号所沢青梅線	瑞穂町二本木543	C地域	2	含	70	○(70)	67	×(65)	×
4	一般国道16号	瑞穂町駒形富士山398	B地域	4	含	70	○(70)	67	×(65)	×
5	都道5号線新宿青梅線	瑞穂町長岡1-62-2	B地域	4	含	72	×(70)	66	×(65)	×

備考：環境基準達成欄の()内は環境基準値を示した。

出典：「令和3年度 自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」（令和5年2月、埼玉県環境部）

「全国自動車交通騒音マップ」（国立環境研究所ホームページ）（令和元年度）

② 苦情の状況

計画地が位置する入間市の「入間市統計書(令和3年版)」によると、令和2年度の公害に関する苦情は286件であり、このうち騒音に関する苦情は50件(全体の17.5%)となっている。

(4) 振動

① 振動の状況

計画地周辺における道路交通振動の測定結果は表5.2.1-6に、調査地点は図5.2.1-3に示すとおりである。

表5.2.1-6 道路交通振動の測定結果(令和3年度)

番号	路線名	測点地点住所	区域区分	車線数合計	等価騒音レベル (dB)				環境基準適合状況 (達成○・非達成×)
					昼間	要請限度達成	夜間	要請限度達成	
1	市道幹36号線	入間市南峯1045-1付近	1	2	52	○ (65)	49	○ (60)	○
2	市道幹36号線	入間市南峯1033付近	1	2	59	○ (65)	53	○ (60)	○

備考：要請限度達成欄の○内は要請限度値を示した。

出典：「令和3年度 自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」(令和5年2月、埼玉県環境部)

② 苦情の状況

計画地が位置する入間市の「入間市統計書(令和3年版)」によると、令和2年度の公害に関する苦情は286件であり、このうち振動に関する苦情は4件(全体の1.4%)となっている。

(5) 悪臭

① 悪臭の状況

計画地周辺における悪臭について公表された調査結果はない。

② 苦情の状況

計画地が位置する入間市の「入間市統計書(令和3年版)」によると、令和2年度の公害に関する苦情は286件であり、このうち悪臭に関する苦情は45件(全体の15.7%)となっている。

5.2.2 水質、底質、水象の状況

(1) 水質

① 河川

計画地周辺の河川等の公共用水域における水質の状況は、表5.2.2-1に、調査地点は図5.2.2-1に示すとおりである。

表5.2.2-1 霞川の水質測定結果(令和3年度)

河川		霞川				環境基準					
地点		金子橋 (都県境)*	青梅市境**	八幡堀**	久保堀**			A類型		B類型	
番号		1	2	3	4						
項目	単位	A類型	B類型 (生物B)			A類型	B類型				
生活環境項目	pH (最小値、最大値)	-	(7.8、8.4)	7.8	-	-	6.5以上 8.5以上	6.5以上 8.5以上			
	BOD (年度平均)	mg/L	1	0.8	2.6	7.6	-	-			
	BOD (75%値)	mg/L	0.9	-	-	-	2mg/L以下	3mg/L以下			
	SS	mg/L	2	2.0	-	-	25mg/L以下	25mg/L以下			
	DO	mg/L	10	-	-	-	7.5mg/L以上	5mg/L以上			
	大腸菌群数	MPN/100mL	7600	-	-	-	1,000MPN/ 100mL以下	5,000MPN/ 100mL以下			
	全亜鉛	mg/L	-	-	-	-	0.03mg/L以下(生物B)				
ニルフェノール	mg/L	<0.00006	-	-	-	0.002mg/L以下(生物B)					
LAS	mg/L	0.0023	-	-	-	0.05mg/L以下(生物B)					
健康項目	カドミウム (平均値)	mg/L	<0.0003	-	-	-	0.003mg/L 以下				
	全リン (最大値)	mg/L	<0.1	-	-	-	検出されないこと。				
	鉛 (平均値)	mg/L	<0.002	-	-	-	0.01mg/L 以下				
	六価クロム (平均値)	mg/L	<0.01	-	-	-	0.02mg/L 以下				
	砒素 (平均値)	mg/L	<0.005	-	-	-	0.01mg/L 以下				
	総水銀 (最大値)	mg/L	<0.0005	-	-	-	0.0005mg/L 以下				
	メチル水銀 (最大値)	mg/L	-	-	-	-	検出されないこと。				
	PCB (最大値)	mg/L	-	-	-	-	検出されないこと。				
	ジクロロメタン (平均値)	mg/L	<0.0002	-	-	-	0.02mg/L 以下				
	四塩化炭素 (平均値)	mg/L	<0.0002	-	-	-	0.002mg/L 以下				
	1,2-ジクロロエタン (平均値)	mg/L	<0.0002	-	-	-	0.004mg/L 以下				
	1,1-ジクロロエチレン (平均値)	mg/L	<0.0002	-	-	-	0.1mg/L 以下				
	シス-1,2-ジクロロエチレン (平均値)	mg/L	<0.0002	-	-	-	0.04mg/L 以下				
	1,1,1-トリクロロエタン (平均値)	mg/L	<0.0002	-	-	-	1mg/L 以下				
	1,1,2-トリクロロエタン (平均値)	mg/L	<0.0002	-	-	-	0.006mg/L 以下				
	トリクロロエチレン (平均値)	mg/L	<0.001	-	-	-	0.01mg/L 以下				
	テトラクロロエチレン (平均値)	mg/L	<0.0002	-	-	-	0.01mg/L 以下				
	1,3-ジクロロプロパン (平均値)	mg/L	<0.0002	-	-	-	0.002mg/L 以下				
	チクロム (平均値)	mg/L	<0.0006	-	-	-	0.006mg/L 以下				
	シマジン (平均値)	mg/L	<0.0003	-	-	-	0.003mg/L 以下				
	チオベンカルブ (平均値)	mg/L	<0.0003	-	-	-	0.02mg/L 以下				
	ベンゼン (平均値)	mg/L	<0.0002	-	-	-	0.01mg/L 以下				
	セレン (平均値)	mg/L	<0.002	-	-	-	0.01mg/L 以下				
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (平均値)	mg/L	1.6	-	-	-	10mg/L 以下					
ふっ素 (平均値)	mg/L	0.045	-	-	-	0.8mg/L 以下					
ぼう素 (平均値)	mg/L	<0.01	-	-	-	1mg/L 以下					
1,4-ジオキサン (平均値)	mg/L	<0.005	-	-	-	0.05mg/L 以下					
特殊項目	フェノール類	mg/L	<0.005	-	-	-					
	銅	mg/L	<0.01	-	-	-					
	溶解性鉄	mg/L	0.1	-	-	-					
	溶解性マンガン	mg/L	<0.05	-	-	-					
	クロム	mg/L	<0.01	-	-	-					

備考：表中の測定値はいずれも環境基準を満たしている。また、番号は図5.2.2-1に対応する。


出典：*「水環境総合情報サイト」(環境省 水・大気環境局ホームページ)


**「入間市の環境」(令和3年、入間市)




凡例


 : 計画地

 : 都県界

 : 市町界

 : 計画地及び
アクセス道路の
境界から3km

この地図は「電子地形図25000」（令和5年6月調整、国土地理院）を使用して作成したものである。
資料：「国土数値情報 河川データ」（平成20年度、国土交通省）」

 : 水質調査地点


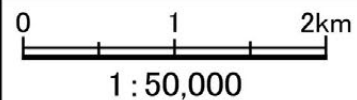
 : 河川、水路

図5.2.2-1 水質測定地点



② 地下水

計画地周辺では地下水の概況調査が行われており、調査結果(検出又は基準超過地点数)は、表5.2.2-2(1)、(2)に、継続監視調査結果の詳細は表5.2.2-3(1)、(2)に示すとおりである。

表5.2.2-2(1) 地下水の概況調査結果(検出又は基準超過地点数)(令和3年度)

測定項目	飯能市 3地点
鉛	0
砒素	0
四塩化炭素	0
トリクロロエチレン	0
テトラクロロエチレン	0
セレン	0
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	3
ふっ素	3
ほう素	2
クロロエチレン	0
1, 4-ジオキサン	0

但し、入間市の調査地点数は0である。

備考：「検出」とは、測定結果が報告下限値以上(地下水環境基準超過を含む)であることを示す。

また、表中に基準超過地点はない。

出典：「令和3年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和5年3月、埼玉県環境部)

表5.2.2-2(2) 地下水の概況調査結果(検出又は基準超過地点数)(令和4年度)

単位: mg/L

測定地点	青梅市	羽村市	瑞穂町	環境基準(括弧書きは指針値)
カドミウム	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.003 以下
全シアン	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
鉛	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.01 以下
六価クロム	< 0.01	< 0.01	< 0.01	0.02 以下
砒素	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.01 以下
総水銀	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀	-	-	-	検出されないこと
P C B	-	-	不検出	検出されないこと
ジクロロメタン	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.02 以下
四塩化炭素	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.002 以下
クロロエチレン	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	-	-	< 0.0002	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.1 以下
1,2-ジクロロエチレン	< 0.0004	< 0.0004	< 0.0004	0.04 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	-
1,1,1-トリクロロエタン	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	-	-	< 0.0002	0.006 以下
トリクロロエチレン	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.01 以下
テトラクロロエチレン	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	-	-	< 0.0002	0.002 以下
チウラム	-	-	< 0.0006	0.006 以下
シマジン	-	-	< 0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	-	-	< 0.0003	0.02 以下
ベンゼン	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.01 以下
セレン	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.05	0.85	5.6	10 以下
硝酸性窒素	0.04	0.84	5.6	-
亜硝酸性窒素	< 0.01	< 0.01	< 0.01	-
ふっ素	< 0.02	0.04	0.02	0.8 以下
ほう素	< 0.01	< 0.01	0.02	1 以下
1,4-ジオキサン	-	-	< 0.005	0.05 以下
フェニトロチオン (MEP)	-	-	< 0.0005	(0.003以下)
イソプロチオラン	-	-	< 0.0005	(0.04以下)
オキシ銅 (有機銅)	-	-	< 0.004	(0.04 以下)
クロロタロニル (TPN)	-	-	< 0.0002	(0.05以下)
プロピザミド	-	-	< 0.00025	(0.008以下)
PFOS及びPFOA	0.0000003	0.0000015	0.0000085	(0.00005 以下) 注

注: PFOS 及び PFOA は暫定指針値を示す。

備考: 「検出」とは、測定結果が報告下限値以上(地下水環境基準超過を含む)であることを示す。

また、表中に基準超過地点はない。

出典: 「令和4年度 東京の地下水質調査結果」(令和5年6月、東京都環境局)

表5.2.2-3(1) 地下水の継続監視調査結果(令和3年度)

市町	地区	四塩化炭素	1,1-ジクロロエチレン	1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	クロロエチレン
入間市	宮寺1							9.3	
	宮寺2							10	
	狭山ヶ原	<0.0002	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.001	0.0063		<0.0002
	東町							10	
	野田							6.3	
	下藤沢							6.0	
	新光1	<0.0002	<0.002	<0.004	<0.0005	0.001	0.0022		<0.0002
	新光2	<0.0002	<0.002	<0.004	<0.0005	0.001	0.0061		<0.0002
下谷ヶ貫									
飯能市	川寺	<0.0002	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.001	<0.0005		<0.0002
	青木							6.9	
	中山							4.6	
	双柳	<0.0002	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.001	<0.0005		<0.0002
	本町	0.0009	<0.002	0.015	<0.0005	0.55	<0.0005		<0.0002
地下水環境基準		0.002 以下	0.1 以下	0.04 以下	1 以下	0.01 以下	0.01 以下	10 以下	0.002 以下

備考：「着色部分」は環境基準超過であることを示す。

出典：「令和3年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和5年3月、埼玉県環境部）

表5.2.2-3(2) 地下水の継続監視調査結果(令和4年度)

(単位：mg/L)

測定地点	1,1-ジクロロエチレン	1,2-ジクロロエチレン		1,1,1-トリクロロエタン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	クロロエチレン	
		シス-1,2-ジクロロエチレン	トランス-1,2-ジクロロエチレン					
青梅市	0.0002 未満	0.0008	0.0006	0.0002 未満	-	0.001 未満	0.050	0.0002 未満
青梅市	0.0002 未満	0.0004 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	-	0.001 未満	0.018	0.0002 未満

備考：「着色部分」は環境基準超過であることを示す。

出典：「令和4年度 東京の地下水質調査結果」（令和5年6月、東京都環境局）

③ 苦情の状況

計画地が位置する入間市の「入間市統計書(令和3年版)」によると、令和2年度の公害に関する苦情は286件であり、このうち水質汚濁に関する苦情は10件(全体の3.5%)となっている。

(2) 底質

計画地及び周辺では、底質について公表された調査結果はない。

(3) 水象

計画地及び周辺の水象の分布状況は、図5.2.2-1に示すとおりである。

計画地周辺には、計画地の北西側に矢端川が、北側を窪堀が北東方向に流れており、一級河川の霞川に合流している。

5.2.3 土壌及び地盤の状況

(1) 土壌

① 農用地における土壌汚染

埼玉県では、農用地の土壌汚染状況を把握するため、銅、砒素及びカドミウムについて5年に一度調査を行っている。

昭和54年度～令和3年度までの土壌汚染状況調査結果は、表5.2.3-1に示すとおりである。各項目とも、全て土壌の汚染に係る環境基準に適合している。

表5.2.3-1 農用地の土壌汚染状況調査の分析測定結果

調査年度		調査地点の分析測定結果											
		土壌中（乾物）								玄米中（現物）			
		銅（mg/kg）				砒素（mg/kg）				カドミウム（mg/kg）			
		最高	最低	平均	調査地点数	最高	最低	平均	調査地点数	最高	最低	平均	調査地点数
一巡目	S. 54～S. 57 全県	32.3	0.1	11.3	90	11.8	tr	1.9	90	0.37	0.02	0.11	46
二巡目	S. 59～S. 62 全県	23.6	0.1	9.0	90	5.3	tr	1.4	90	0.3	nd	0.09	48
三巡目	H. 元～H. 04 全県	21.6	0.3	9.3	90	8	tr	1.8	90	0.38	tr	0.09	46
四巡目	H. 06～H. 09 全県	28.7	0.2	9.4	87	13.1	tr	2.2	87	0.3	tr	0.06	31
五巡目	H. 11～H. 14 全県	30.8	0.1	11.2	180	11.3	0.1	2	180	0.28	tr	0.09	50
六巡目	H. 16～H. 19 全県	21.5	tr	8.9	180	6.4	0.1	1.7	180	0.31	tr	0.06	47
七巡目	H. 21～H. 24 全県	21.7	tr	9.5	165	7.9	tr	1.7	165	0.22	tr	0.03	43
八巡目	H. 26～H. 29 全県	25.5	0.1	9.1	118	10.5	0.2	2.5	118	0.29	tr	0.05	31
九巡目	R. 元～R. 03 全県	24.4	0.1	8.5	86	10.1	0.1	2.1	86	0.23	0.02	0.08	26
土壌汚染環境基準 （農用地）		土壌1kgにつき 125mg未満				土壌1kgにつき 15mg未満				米1kgにつき 0.4mg未満			

備考：nd：検出限界以下 tr：極微量検出

県農業技術研究センターの分析測定結果で、昭和58年、63年、平成5年、10年、15年、20年、25年、30年は、各調査巡の取りまとめ年である。

出典：「令和5年度 埼玉県環境白書」（令和5年12月、埼玉県）

② ダイオキシン類

埼玉県では、「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成11年法律第105号）に基づく土壌の常時監視測定（一般環境把握調査及び発生源周辺状況把握調査）を行っている。

令和4年度の関係市の調査地点における一般環境把握調査結果は、表5.2.3-2に示すとおりであり、「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づく環境基準に適合している。

表5.2.3-2 土壌中のダイオキシン類の常時監視測定結果(令和4年度の一般環境把握調査)

調査地点		ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
飯能市	下名栗	0.48	1,000以下
	古瀬戸	0.0087	
	下直竹	3.4	
	川寺	1.5	
	小久保	4.3	

出典：「土壌常時監視結果 ダイオキシン類」（埼玉県ホームページ）

③ 土壌の分布状況

計画地及び周辺の表層土壌の分布状況は、図5.2.3-1に示すとおりである。

計画地は、台地部に黒ボク土壌の「北原統」が分布している。計画地周辺については、上記の土壌に加え、黒ボク土壌の「皆瀬統」や「水野統」が東西に分布しており、北側の丘陵地では乾性褐色森林土壌の「七国1統」や褐色森林土壌の「七国2統」、霞川沿いには黒ボクグライ土壌の「霞川統」や厚黒ボク土壌の「瀬谷統」等が分布している。

④ 苦情の状況

計画地が位置する入間市の「入間市統計書(令和3年版)」によると、令和2年度の公害に関する苦情は286件であり、このうち土壌汚染に関する苦情は0件(全体の0.0%)となっている。



資料A
資料B

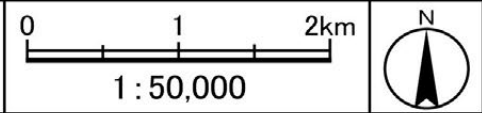
凡例

: 計画地
 : 環境に影響を及ぼす範囲(計画地敷地境界から3km)

資料A : 5万分の1土地分類基本調査(土壤図) 川越(昭和47年10月)
 資料B : 5万分の1土地分類基本調査(土壤図) 青梅(昭和47年3月)

<p>厚層黒ボク土壤</p> <ul style="list-style-type: none"> Ksa : 笠幡統(資料A) Sey : 瀬谷統(資料B) Og : 太田ヶ谷統(資料A) Ngn : 長貫統(資料B) Hgo : 東青梅統(資料B) <p>黒ボク土壤</p> <ul style="list-style-type: none"> Mns : 皆瀬統(資料B) 	<ul style="list-style-type: none"> Im : 今福統(資料A) Kb : 上広谷統(資料A) Mzn : 水野統(資料B) Ohn : 大野原統(資料B) Fus : 福生統(資料B) Kih : 北原統(資料B) Ksh : 青山統(資料A) <p>多湿黒ボク土壤</p> <ul style="list-style-type: none"> Exl : 深井沢統(資料B) Mik : 三川内統(資料B) Ou : 大内統(資料B) Tg : 勅使河原統(資料A) 	<p>褐色森林土壤</p> <ul style="list-style-type: none"> Ong : 恩方統(資料B) Ks : 久須美統(資料A) Nkt 2 : 七国峠2統(資料B) Sb : 柴統(資料A) Nag : 長瀬統(資料A) <p>褐色低地土壤</p> <ul style="list-style-type: none"> Mik : 三川内統(資料B) Ou : 大内統(資料B) <p>灰色低地土壤</p> <ul style="list-style-type: none"> Nag : 長瀬統(資料A) <p>乾性褐色森林土壤</p>	<ul style="list-style-type: none"> Nkt 1 : 七国峠1統(資料B) Ok : 大河原統(資料A) Neo : 南郷統(資料B) Sb : 柴統(資料A) Nag : 長瀬統(資料A) <p>岩屑性土壤</p> <ul style="list-style-type: none"> Neo : 南郷統(資料B) <p>細粒グライ土壤</p> <ul style="list-style-type: none"> I : 東浦統(資料B) <p>細粒灰色低地土壤</p> <ul style="list-style-type: none"> Tg : 勅使河原統(資料A) Tg : 勅使河原統(資料A) 	<ul style="list-style-type: none"> Ko : 虎秀統(資料A) Kay : 栢山統(資料B) Okk : 追子野木統(資料B) Toj : 外城統(資料B) Miy : 美山統(資料B) Hnu : 堀之内統(資料B)
---	--	--	---	--

図5.2.3-1 土壤図



(2) 地盤

① 地盤沈下の状況

計画地及び周辺の東側の入間市では、地盤沈下の調査が実施されており、平成29年1月1日～令和4年1月1日までの地盤標高の変動量の測量結果は表5.2.3-3(1)、(2)に、調査地点は図5.2.3-2に示すとおりである。

表5.2.3-3(1) 地盤標高の変動量の推移

番号	調査地点 所在地	調査開始 年月日	各年別変動量 (mm)					過去5年間 の変動量 (mm)	調査開始 からの 変動量 (mm)	R4.1.1 の真高 (T.P.) (m)
			平成29.1.1 平成30.1.1	平成30.1.1 平成31.1.1	平成30.1.1 令和2.1.1	令和2.1.1 令和3.1.1	令和3.1.1 令和4.1.1			
1	入間市 二本木1175-1	平成17.1.1	+1.8	-1.3	+3.2	+1.9	-2.7	+2.9	-0.4	127.1333

備考：番号は、図5.2.3-2に対応する。出典：「水準測量成果表 令和4年度」（埼玉県環境部ホームページ）

表5.2.3-3(2) 地盤標高の変動量の推移

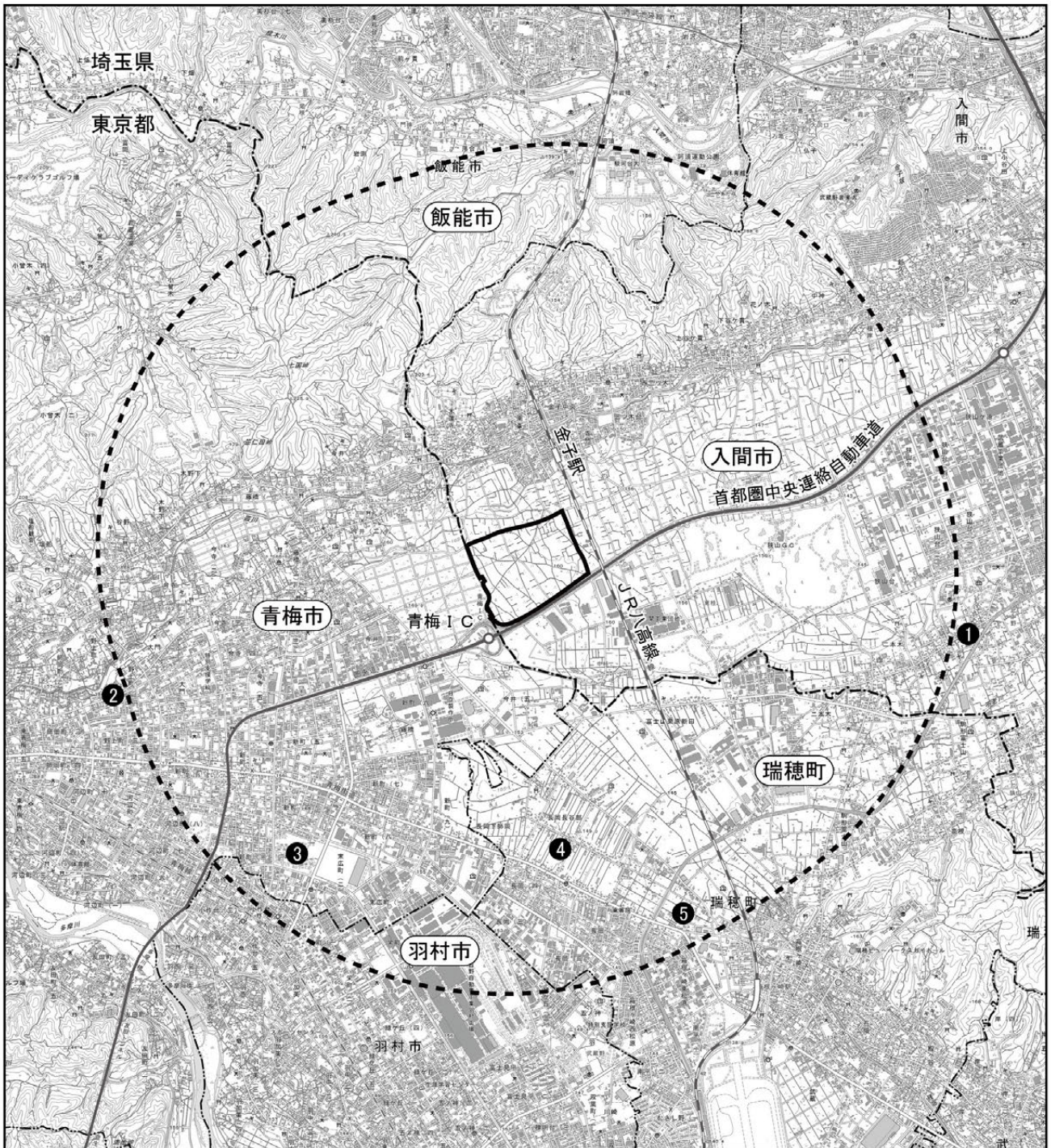
番号	調査地点 所在地	各年別変動量 (mm)					過去5年間 の変動量 (mm)	R4.1.1 の真高 (T.P.) (m)
		平成29.1.1 平成30.1.1	平成30.1.1 平成31.1.1	平成30.1.1 令和2.1.1	令和2.1.1 令和3.1.1	令和3.1.1 令和4.1.1		
2	青梅市 野上町二丁目251	+1.0	+0.3	+0.4	+2.0	-1.8	+1.9	180.4921
3	青梅市 新町三丁目72	+0.3	+3.3	-0.2	+1.8	-1.1	+4.1	165.2867
4	瑞穂町 長岡長谷部250	-3.3	+5.2	+0.1	+1.7	-0.3	+3.4	148.9606
5	瑞穂町 箱根ヶ崎1292	-1.7	+4.8	-0.2	+1.9	+1.3	+6.1	142.0369

備考：番号は、図5.2.3-2に対応する。また、過去5年間の変動量(mm)は各年別変動量(mm)より算出している。

出典：「水準基標測量成果表 平成30年度～令和4年度」（東京都建設局ホームページ）

② 苦情の状況

計画地が位置する入間市の「入間市統計書(令和3年版)」によると、令和2年度の公害に関する苦情は286件であり、このうち地盤沈下に関する苦情は0件(全体の0.0%)となっている。

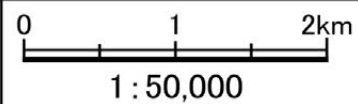


この地図は「電子地形図25000」（令和5年6月調整、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡例

- : 計画地
- : 都県界
- : 市町界
- : 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- : 地盤地下調査地点

図5.2.3-2 地盤標高の変動量の調査地点



5.2.4 地形及び地質の状況

(1) 地形の状況

計画地及び周辺の地形分類は、図5.2.4-1に示すとおりである。

計画地の地形は、砂礫台地（GtⅢ）に段丘上の浅い谷が一部に分布している。

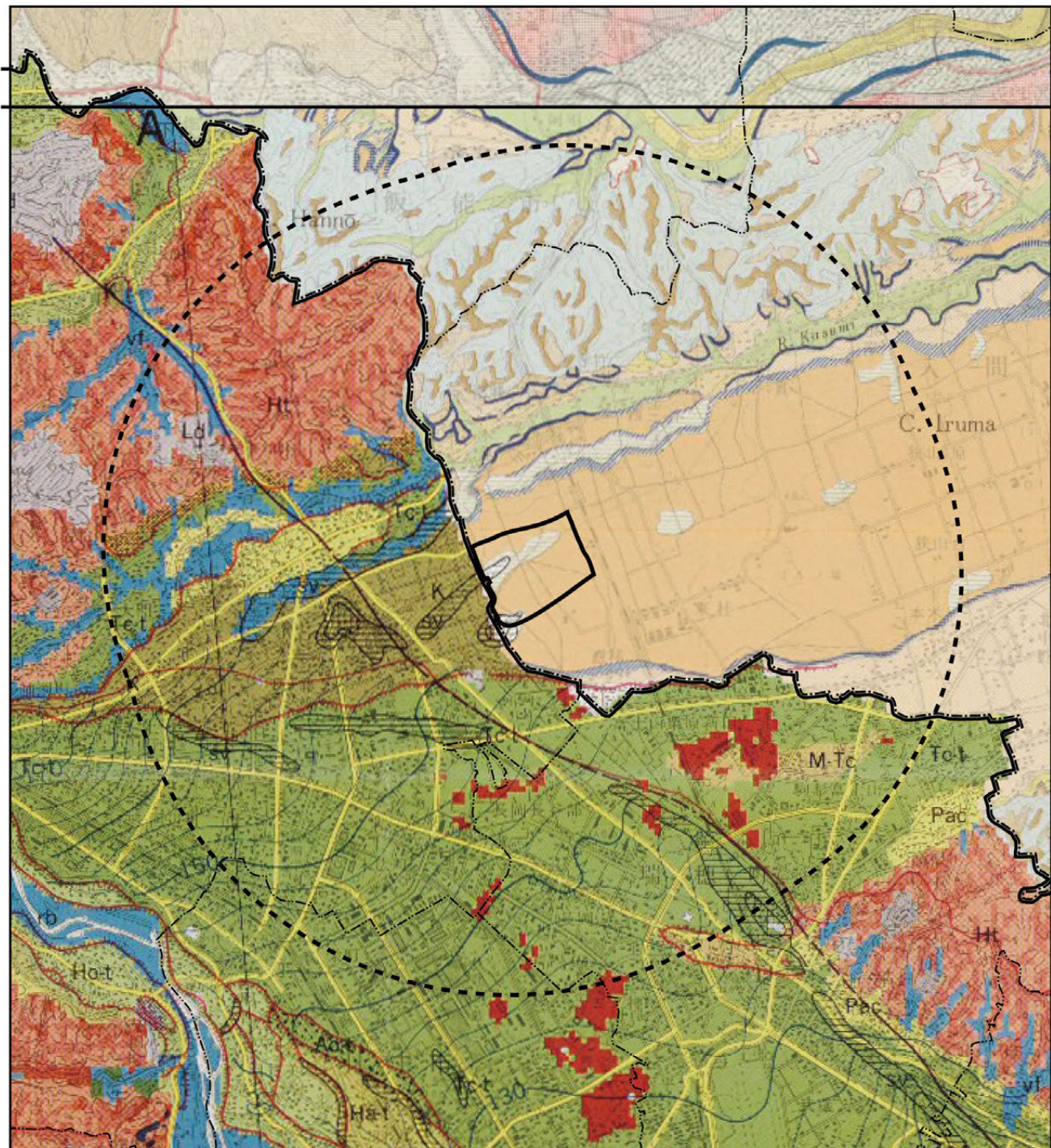
計画地周辺の地形は、砂礫台地が広がっており、北側では加治丘陵等の丘陵地が東西に分布している。また、霞川沿いには谷底平野や崖が分布している。

(2) 地質の状況

計画地及び周辺の表層地質分類は、図5.2.4-2に示すとおりである。

計画地の地質は、火山性岩石（ロームS）が広く分布している。

計画地の周辺の地質は、火山性岩石（ローム）が広がっており、北側では加治丘陵等の丘陵地に半固結堆積物（礫がち地層、泥岩、飯能礫層、三ツ木礫層）が分布している。また、北東側の霞川沿いには未固結堆積物（礫がち堆積物）等が分布している。



資料A

資料B

資料C

凡例

▭ : 計画地

⊗ : 環境に影響を及ぼす範囲 (計画地敷地境界から3km)

----- : 都県界

----- : 市町界

資料A : 5万分の1土地分類基本調査 (地形分類図) 川越 (昭和47年10月 埼玉県)
 資料B : 5万分の1土地分類基本調査 (地形分類図) 青梅 (昭和47年3月 経済企画庁)
 資料C : 5万分の1土地分類基本調査 (地形分類図) 川越・青梅 (平成8年3月 東京都)

資料A

- Mt : 小起伏山地
- Mt-I : 山麓地 (I)
- Ap : 火山灰台地
- P : 谷底平野
- F : 扇状地
- 崖
- 県道

資料B

- 山地・丘陵地
- 山頂緩斜面
- 山腹・山麓緩斜面
- 急斜面
- 砂礫台地 Gt II
- 砂礫台地 Gt III
- 砂礫台地 Gt IV
- 谷底平野
- 河原

- 崖壁・麓斜面
- 浅い谷 (段丘上)
- 崖
- 台地の緩斜面

資料C

- 山地・丘陵地
- Pac : 新期土石流地形・沖積錐
- Ht : 丘頂平坦面
- vt : 丘陵地内の谷底低地

- 台地
- K : 下末吉段丘面 (金子台面)
- M-Tc : 武蔵野立川中間面
- Te-I : 立川段丘面
- Te-II : 青柳段丘面
- Ho-t : 拜島面
- 沖積世段丘面群
- 段丘上の浅い谷
- 段丘崖

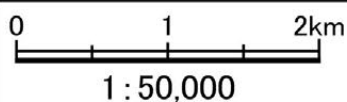
低地

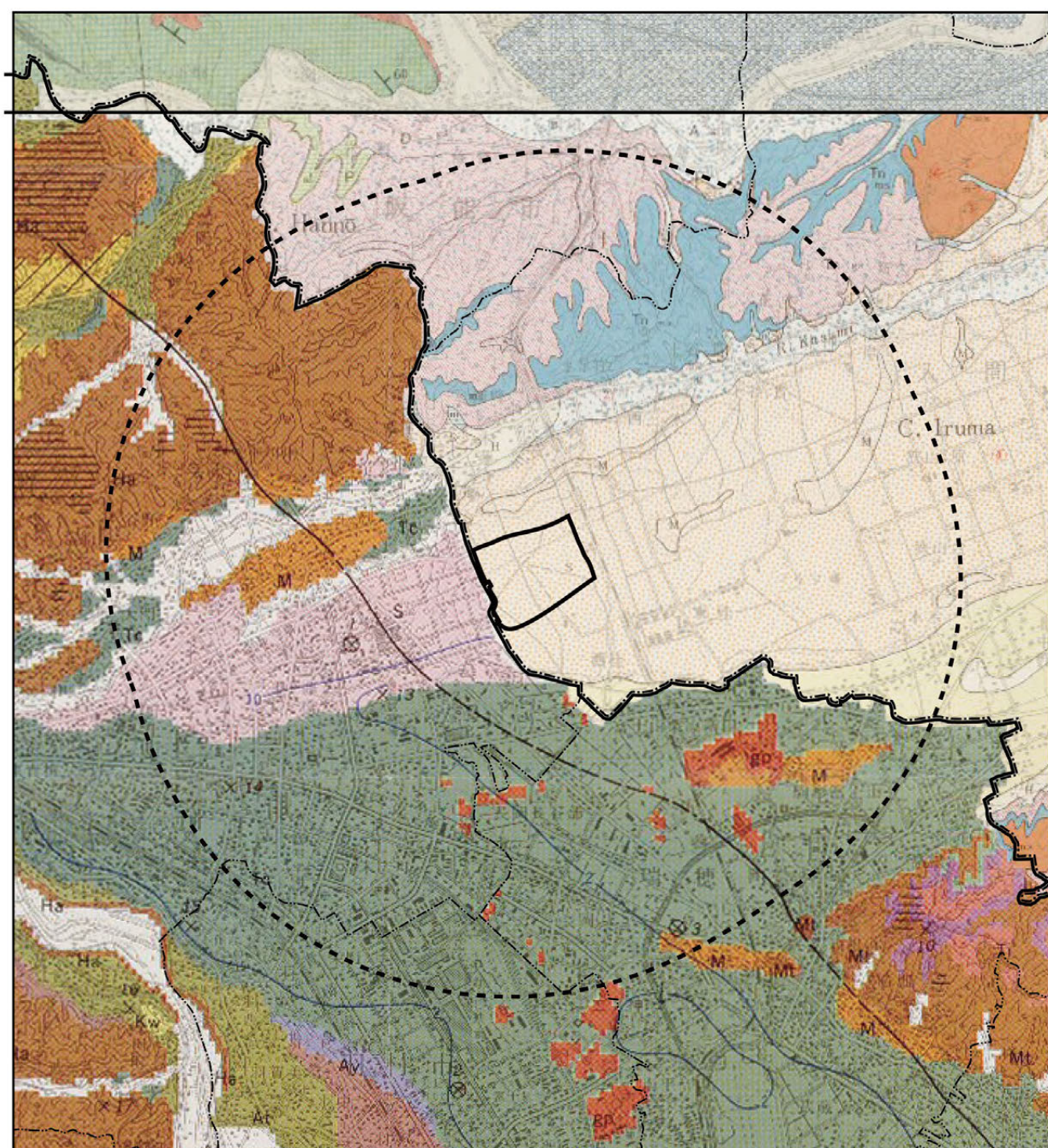
- nl : 自然堤防
- rb : 河川敷 (堤外地を含む)

その他

- Ld : 大規模な人口改変地 (ゴルフ場・遊園地・墓地など)
- 埋立てられた大きな穴
- 主要分水界
- 不圧地下水等高線

図5.2.4-1 地形分類図





資料A
資料B

資料C

凡例

: 計画地
 : 環境に影響を及ぼす範囲 (計画地敷地境界から3km)
 - - - - - : 都県界
 - - - - - : 市町界

資料A

- 未固結堆積物
- : 砂泥
- : 礫
- 固結堆積物
- : 礫岩
- 山性堆積物
- : ロ-ム

資料B

- 未固結堆積物
- : 礫がち堆積物
- 半固結堆積物
- : 礫がち地層
- : 泥岩
- 固結堆積物
- : 砂岩・泥岩互層

火山性岩石

- : ロ-ムT
- : ロ-ムS
- : ロ-ムM
- : ロ-ムH

資料C

- 未固結堆積物
- : 沖積段丘堆積物
- : 拝島段丘堆積物
- : 青柳ロ-ム層・青柳段丘堆積物
- : 立川ロ-ム層・立川段丘堆積物
- : 武蔵野ロ-ム層・武蔵野段丘堆積物
- : 下末吉ロ-ム層・下末吉段丘堆積物
- : 芋窪礫層・美根礫層

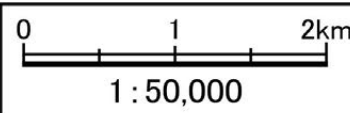
半固結堆積物

- : 飯能礫層・三ツ木礫層

固結堆積物

- : 川井層 (含礫泥岩・砂岩泥岩互層・砂岩)
- : 成木層 (含礫泥岩・砂岩)
- : 砂利採掘跡地
- : 人工変質地

図5.2.4-2 表層地質図



5.2.5 動物の生息、植物の生育、植生及び生態系の状況

(1) 動物

① 動物相の状況

計画地が位置する入間市は、埼玉県南西部に位置し、中央部の武蔵野台地にお茶畑や住宅地が広がり、北側には加治丘陵の樹林帯が広く分布し、東西に霞川が流れており、主に北側の丘陵地の自然環境が豊かである。

計画地及び周辺の動物の確認状況は、表5.2.5-1に示すとおりである。計画地が位置する入間市において、「入間市史 通史編」（平成6年、入間市）により、240種の動物種が確認されている。

また、計画地の北側に近接する自然豊かな加治丘陵地において、「加治丘陵自然環境調査報告書」（平成2年、入間市加治丘陵自然環境調査研究会）により、1,086種の動物種が確認されている。このほか、動物の分布調査が行われた「自然環境保全基礎調査」（環境省）により、計画地が含まれる2次メッシュ（533952 青梅へ）においては、177の動物種が確認されている。

表5.2.5-1 計画地及び周辺の動物の確認状況

分類群	各文献による確認種数		
	入間市史 通史編	加治丘陵自然環境調査報告書	自然環境保全基礎調査
哺乳類	19種	11種	3種
鳥類	200種	92種	68種
爬虫類	10種	10種	2種
両生類	11種	10種	2種
魚類	—	15種	4種
昆虫類	—	948種	98種
合計	240種	1,086種	177種

備考：加治丘陵自然環境調査報告書の昆虫類は、水生昆虫類を含む。

出典：「入間市史 通史編」（平成6年、入間市）

「加治丘陵自然環境調査報告書」（平成2年、入間市加治丘陵自然環境調査研究会）

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査（哺乳類）」（平成14年、環境省自然環境局生物多様性センター）

「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書（鳥類）」（昭和63年、環境庁）

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査（両生類・爬虫類）」（平成13年、環境省自然環境局生物多様性センター）

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査（淡水魚類）」（平成14年、環境省自然環境局生物多様性センター）

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査（昆虫類）」（平成14年、環境省自然環境局生物多様性センター）

② 貴重な動物の分布状況

「人間市史 通史編」、「加治丘陵自然環境調査報告書」、「自然環境保全基礎調査」により計画地及びその周辺で確認された動物種のうち、表5.2.5-2の貴重な動物種の選定に該当する動物の一覧を表5.2.5-3(1)～(3)に示す。

なお、「埼玉県レッドデータブック動物編2018（第4版）」（平成30年3月、埼玉県）では、地帯区分の考え方が導入されている。このため、ここでは地帯区分のうち、計画地及び周辺が位置する「台地・丘陵地」におけるレッドリスト種として整理された動物種を対象とした。「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月、法律第75号）では6種、「環境省レッドリスト2020」（令和2年3月、環境省）では33種、「埼玉県レッドデータブック動物編2018（第4版）」（平成30年3月、埼玉県）では78種、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（平成12年3月、条例第11号）では1種が該当種となっている。

また、貴重な動物の分布状況としては、「埼玉県オオタカ等保護指針の配慮地照会システム」（埼玉県生物多様性センター）により、計画地及び周辺のオオタカの生息状況の照会をした結果、計画地から1.5km以内にオオタカの県営巣登録地が存在していることが確認された。

表5.2.5-2 貴重な動物種の選定基準

	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」 （昭和25年5月、法律第214号）	特天：国指定特別天然記念物 国展：国指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 （平成4年6月、法律第75号）	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト2020」 （令和2年3月、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「埼玉県レッドデータブック動物編2018（第4版）」 （平成30年3月、埼玉県）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT1：準絶滅危惧1型 NT2：準絶滅危惧2型 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 RT：地帯別危惧
⑤	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」 （平成12年3月、条例第11号）	希少：県内希少野生動植物種

表5.2.5-3(1) 計画地及び周辺で確認された貴重な動物

分類群	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
哺乳類	ムササビ				NT1	
鳥類	ハジロカイツブリ				越 NT1	
	ミミカイツブリ				越 DD	
	アカエリカイツブリ				越 VU	
	カンムリカイツブリ				越 NT1	
	ヨシゴイ			NT	繁 EN	
	ミゾゴイ			VU	繁 CR	
	ササゴイ				繁 EN	
	チュウサギ			NT	繁 VU	
	コサギ				繁 NT2	
	クロトキ			DD		
	オシドリ			DD	繁・越 VU	
	トモエガモ			VU	越 VU	
	ミサゴ			NT		
	ハチクマ			NT	繁 DD	
	トビ				繁 DD	
	オジロワシ		国内	VU		
	オオワシ		国内	VU		
	ツミ				繁 NT2	
	ハイタカ			NT	繁・越 NT2	
	オオタカ			NT	繁・越 VU	
	サシバ			VU	繁 CR	
	ノスリ				繁 DD・越 NT2	
	チュウヒ		国内	EN		
	ハヤブサ		国内	VU	越 VU	
	チョウゲンボウ				繁 VU	
	ウズラ			VU		
	ヤマドリ				繁・越 VU	
	クイナ				越 EN	
	ヒクイナ				繁 CR	
	バン				繁 VU	
	タマシギ			VU	繁・越 CR	
	イカルチドリ				繁 NT1	
	シロチドリ			VU	繁 LP	
	タゲリ				越 EN	
	ケリ			DD		
	ヤマシギ				越 NT2	
	ハマシギ			NT		
	イソシギ				繁 NT2	
	ハウロクシギ		国際	VU		
	オオジシギ				繁 CR	
コサジサシ			VU	繁 CR		
カッコウ				繁 NT2		
オオコノハズク				繁 EX・越 DD		
フクロウ				繁 VU・越 NT2		

表5.2.5-3(2) 計画地及び周辺で確認された貴重な動物

分類群	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
鳥類	アオバズク				繁 NT2	
	ヨタカ			NT	繁 VU	
	ヒメアマツバメ				繁 LP・越 VU	
	ヤマセミ				繁 EN	
	アカショウビン				繁 EX	
	ブッポウソウ			EN		
	サンショウクイ			VU	繁 CR	
	サンコウチョウ				繁 CR	
	チゴモズ			CR	繁 CR	
	アカモズ		国内	EN	繁 CR	
	トラツグミ				繁 VU	
	クロツグミ				繁 VU	
	コサメビタキ				繁 CR	
	キビタキ				繁 NT1	
	オオルリ				繁 CR	
	ヤブサメ				繁 VU	
	オオヨシキリ				繁 NT2	
	センダイムシクイ				繁 CR	
	ヒガラ				繁 VU	
	ヤマガラ				繁 NT2	
	コシアカツバメ				繁 DD	
	ホオジロ				繁 NT2	
	ミヤマホオジロ				越 NT1	
	ホオアカ				繁 CR	
	クロジ				越 NT2	
	ベニマシコ				越 NT2	
爬虫類	タカチホヘビ				VU	
	シマヘビ				EN	
	アオダイショウ				NT2	
	ジムグリ				NT1	
	ヤマカガシ				NT2	
	ヒバカリ				NT2	
	ニホンマムシ				NT2	
両生類	トウキョウサンショウウオ			VU	EN	
	アカハライモリ			NT	CR	希少
	ニホンアカガエル				VU	
	ヤマアカガエル				NT1	
	トウキョウダルマガエル			NT	NT1	
	ツチガエル				EN	
	シュレーゲルアオガエル				NT2	
	カジカガエル				NT1	
	アズマヒキガエル				VU	
魚類	ゲンゴロウブナ			EN		
	ホトケドジョウ			EN	CR	
	カジカ (大卵型)			NT		
	スナヤツメ (北方種、南方種)			VU		

表5.2.5-3(3) 計画地及び周辺で確認された貴重な動物

分類群	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
昆虫類	ゲンジボタル				VU	
	ヘイケボタル				NT1	
	シロスジカミキリ				NT2	
	ウラゴマダラシジミ				NT1	
	ミドリシジミ				NT1	
	コツバメ				MT2	
	ウラギンシジミ				VU	
	ウラギンスジヒョウモン				NT2	
	オオミスジ				EX	
	ヒオドシチョウ				VU	
	オオムラサキ				NT1	
	ジャノメチョウ				NT1	
	ミヤマセセリ				NT1	
	ホソバセセリ				NT2	
	オオチャバネセセリ				NT2	
	ヤママユ				NT2	
	エゾヨツメ				EN	
	ヤネホソバ			NT		
	コシロシタバ			NT		
	キイトトンボ				NT2	
	ムカシヤンマ				VU	
	ヤマサナエ				NT2	
	コシボソヤンマ				NT1	
	サラサヤンマ				NT2	
	ルリボシヤンマ				NT1	
	マルタンヤンマ				NT2	
	ハラビロトンボ				NT2	
	ヒメアカネ				VU	
	キトンボ				VU	
	ヤマトセンブリ			DD		
ホソバトビケラ				NT1		
コバントビケラ				NT2		
合計	123種	0種	6種	33種	78種	1種

備考：選定基準①～⑤は、表5.2.5-2に対応する。

出典：「入間市史 通史編」（平成6年、入間市）

「加治丘陵自然環境調査報告書」（平成2年、入間市加治丘陵自然環境調査研究会）

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査（哺乳類）」（平成14年、環境省自然環境局生物多様性センター）

「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書（鳥類）」（昭和63年、環境庁）

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査（両生類・爬虫類）」（平成13年、環境省自然環境局生物多様性センター）

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査（淡水魚類）」（平成14年、環境省自然環境局生物多様性センター）

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査（昆虫類）」（平成14年、環境省自然環境局生物多様性センター）

(2) 植物

① 植生の状況

計画地が位置する入間市は、埼玉県南西部に位置し、中央部の武蔵野台地にお茶畑や住宅地が広がり、北側には加治丘陵の樹林帯が広く分布し、東西に霞川が流れており、主に北側の丘陵地の自然環境が豊かである。

② 植物相の状況

計画地及び周辺の植物の確認状況は、表5.2.5-4に示すとおりである。計画地が位置する入間市においては、「入間市史 植物編」（昭和59年、入間市）により937種の植物種が確認されている。

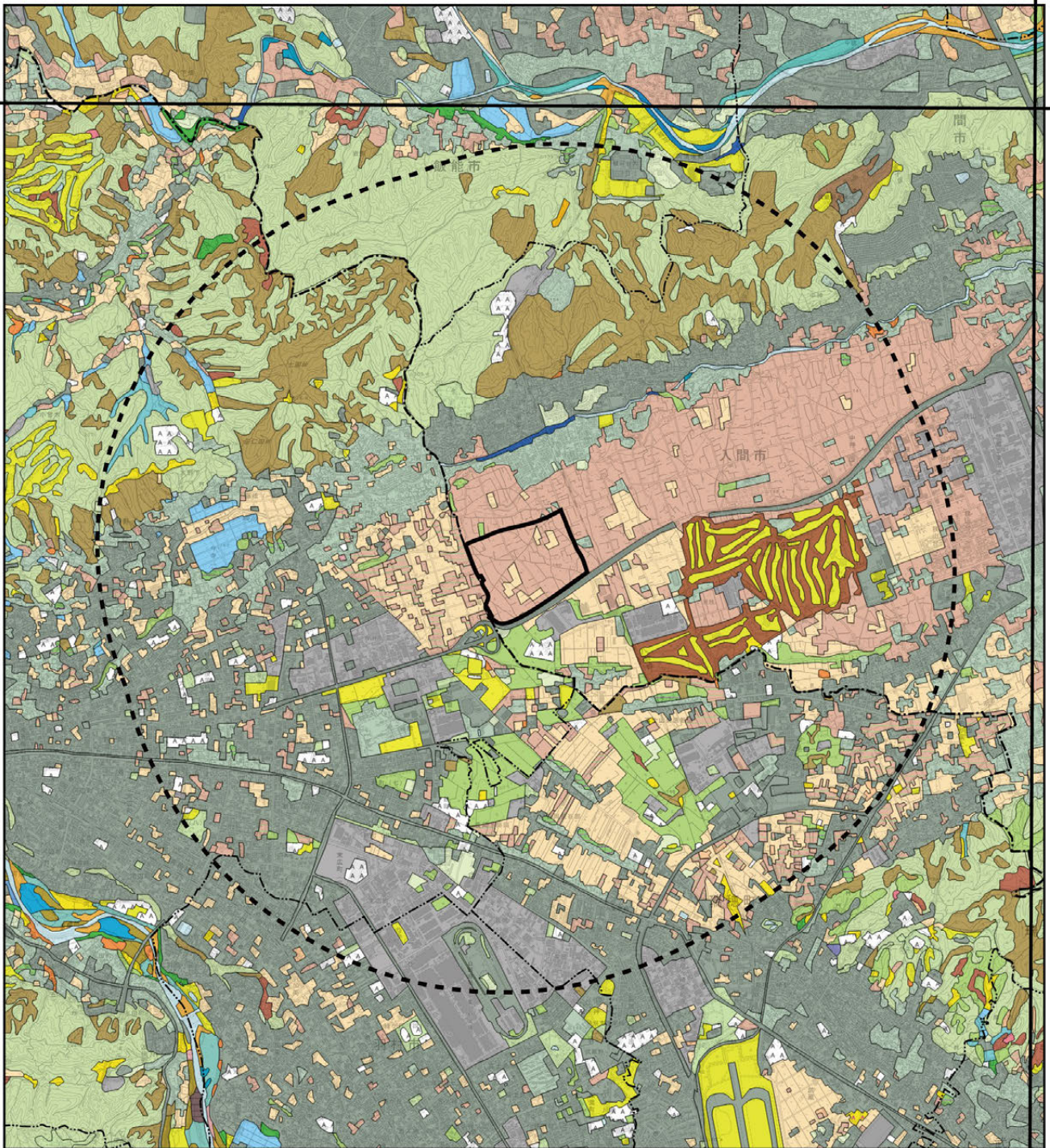
また、計画地の北側に近接する加治丘陵地において、「加治丘陵自然環境調査報告書」（平成2年、入間市加治丘陵自然環境調査研究会）により680種の植物種が確認されている。

表5.2.5-4 計画地及び周辺の植物の確認状況

分類群		各文献による確認種数		
		「入間市史 植物編」による確認種数	「加治丘陵自然環境調査報告書」による確認種数	
シダ植物		72種	56種	
裸子植物		5種	6種	
被子植物	単子葉類	266種	182種	
	双子葉類	離弁花類	374種	263種
		合弁花類	225種	175種
合計		937種	680種	

出典：「入間市史 植物編」（昭和59年、入間市）

「加治丘陵自然環境調査報告書」（平成2年、入間市加治丘陵自然環境調査研究会）

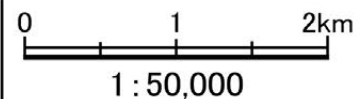


凡例

この地図は「電子地形図25000」（令和5年6月調整、国土地理院）を使用して作成したものである。
 資料：自然環境調査Web-GIS 1/25,000 植生図（平成11年～環境省生物多様性センター）

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-------|
| : 計画地 | : 環境に影響を及ぼす範囲（計画地敷地境界から3km） | : 都県界 | : 市町界 |
|-------|-----------------------------|-------|-------|
-
- | | | | | |
|-------------------------|-----------------------------|------------------------|----------------------------|-------------|
| 11 221200 オニグルミ群落(V) | 42 420101 ヤマトツジアカマツ群落 | 58 540100 スギ・ヒノキ・サワラ植林 | e 570200 果樹園 | 580600 開放水域 |
| 17 260000 伐採跡地群落(V) | 45 440000 低木群落 | 59 540200 アカマツ植林 | e1 570201 茶畑 | 580700 自然裸地 |
| 18 270101 シラカン群落 | 46 440200 クズ群落 | 62 540902 ニセアカシア群落 | a 570300 畑雑草群落 | |
| 27 320100 ヤナギ高木群落(VI) | 70 450100 ススキ群団(VII) | 63 540903 テーダマツ植林 | b 570400 水田雑草群落 | |
| 28 320200 ヤナギ低木群落(VI) | 47 450101 アズマネザサススキ群落 | 64 541000 その他植林 | d 570500 放棄水田雑草群落 | |
| 30 320401 タマアジサイフサザクラ群落 | 48 450103 チガヤススキ群落 | 66 550000 竹林 | k 580100 市街地 | |
| 32 400104 シラカシ屋敷林 | 50 470400 ヨシクラス | h 560100 ゴルフ場・芝地 | i 580101 緑の多い住宅地 | |
| 34 410101 クリーコナラ群落 | 52 470501 ツルヨシ群落 | g 560200 牧草地 | p 580200 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 | |
| 35 410102 クヌギコナラ群落 | 53 470502 オギ群落 | f 570100 路傍・空地雑草群落 | L 580300 工場地帯 | |
| 41 420100 アカマツ群落(VII) | 56 470900 河辺一年生草本群落(タウコグラス) | c 570101 放棄畑雑草群落 | m 580400 造成地 | |

図5.2.5-1 植生図



③ 貴重な植物の分布状況

「入間市史 植物編」、「加治丘陵自然環境調査報告書」により計画地及びその周辺で確認された植物種のうち、表5.2.5-5の貴重な植物種の選定に該当する植物の一覧を表5.2.5-6(1)、(2)に示す。

なお、「埼玉県レッドデータブック植物編2011」（平成24年3月、埼玉県）では、地帯区分の考え方が導入されている。このため、ここでは地帯区分のうち、計画地及び周辺が位置する「丘陵南」におけるレッドリスト種として整理された植物種を対象とした。

計画地及び周辺で確認された貴重な植物は、「環境省レッドリスト2020」（令和2年3月、環境省）では17種、「埼玉県レッドデータブック植物編2011」（平成24年3月、埼玉県）では71種、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（平成12年3月、条例第11号）では1種が該当種となっている。

また、「埼玉県レッドデータブック植物編2011」（平成24年3月、埼玉県）によると、埼玉県の希少な植物群落のうち入間市に分布するものとして、単一群落では暖温帯から中間温帯にかけて分布している「シラカシ群落」や「コナラ群落」、群落複合では狭山丘陵の雑木林（コナラ群落、アカマツ群落）があげられている。

表 5.2.5-5 貴重な植物種の選定基準

	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」 (昭和25年5月、法律第214号)	特天：国指定特別天然記念物 国展：国指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年6月、法律第75号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト2020」 (令和2年3月、環境省)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「埼玉県レッドデータブック植物編2011」 (平成24年3月、埼玉県)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CE：絶滅危惧I類 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑤	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」 (平成12年3月、条例第11号)	希少：県内希少野生動植物種

表5.2.5-6(1) 計画地及び周辺で確認された貴重な植物

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
ミズニラ科	ミズニラ			NT	VU	
トクサ科	イヌスギナ				NT	
	アカハナワラビ				NT	
	ナツノハナワラビ				NT	
ハナヤスリ科	コハナヤスリ				EN	
ウラジロ科	ウラジロ				NT	
	コシダ				VU	
イノモトソウ科	コバノイシカグマ				NT	
	ホラシノブ				VU	
オシダ科	キヨスミヒメワラビ				NT	
	オオヒメワラビ				NT	
サンショウモ科	サンショウモ			VU	EN	
ヒノキ科	ネズミサシ				NT	
ミクリ科	ヤマトミクリ			NT	EN	
ヒルムシロ科	ヒルムシロ				NT	
	エビモ				NT	
オモダカ科	ヘラオモダカ				NT	
	アギナシ			NT		
イネ科	ウシクサ				NT	
	ヌマガヤ				EN	
	ムツオレグサ				NT	
	ハイチゴザサ				EN	
カヤツリグサ科	タチスゲ				NT	
	ヒメゴウソ				NT	
	トダスゲ(アワスゲ)			CR	CR	希少
	タカネマスクサ				NT	
	マツカサススキ				NT	
サトイモ科	ヒメザゼンソウ				EN	
	ウラシマソウ				NT	
ホシクサ科	ホシクサ				EN	
ユリ科	カタクリ				NT	
	ヒメニラ				NT	
	アマナ				NT	
	ヒロハノアマナ (ヒロハアマナ)			VU	EN	
ヒガンバナ科	キツネノカミソリ				NT	
アヤメ科	ノハナショウブ				VU	
ラン科	エビネ			NT	EN	
	ギンラン				VU	
	キンラン			VU	EN	
	ササバギンラン				NT	
	サイハイラン				NT	
	シュンラン				NT	
	ミヤマウズラ				NT	
	クモキリソウ				NT	
	オオバノトンボソウ				NT	
	トンボソウ				CR	
	ノヤマトンボ (オオバノトンボソウ)				NT	
	ブナ科	アカガシ				NT
ウマノスズクサ科	カンアオイ				NT	

表5.2.5-6(2) 計画地及び周辺で確認された貴重な植物

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
キンボウゲ科	イチリンソウ				NT	
	アズマイチゲ				NT	
	カザグルマ			NT	EN	
メギ科	イカリソウ				NT	
ケシ科	ヤマブキシソウ				NT	
ベンケイソウ科	タコノアシ			NT	VU	
ユキノシタ科	ネコノメソウ				NT	
スマレ科	コミヤマスマレ				EN	
	マキノスマレ				VU	
セリ科	ヌマゼリ(サワゼリ)			VU		
サクラソウ科	ノジトラノオ			VU		
	ヌマトラノオ				NT	
リンドウ科	センブリ				VU	
ムラサキ科	ヤマルリソウ				VU	
シソ科	ミゾコウジュ			NT	NT	
	トウゴクシソバタツナミ				NT	
	オカタツナミソウ				NT	
	ヤマジソ			NT		
ゴマノハグサ科	シソクサ				EN	
	キクモ				NT	
	クチナシグサ				NT	
ハマウツボ科	ナンバンギセル				VU	
キツネノマゴ科	ハグロソウ				NT	
オミナエシ科	オミナエシ				EN	
キキョウ科	キキョウ			VU		
	サワギキョウ				CR	
キク科	キクタニギク (アワコガネギク)			NT		
	オグルマ				NT	
	アキノハハコグサ			EN		
38科	78種	0種	0種	17種	71種	1種

備考：選定基準①～⑤は、表5.2.5-5に対応する。

出典：「入間市史 植物編」（昭和59年、入間市）

「加治丘陵自然環境調査報告書」（平成2年、入間市加治丘陵自然環境調査研究会）

④ 巨樹・巨木林等の分布状況

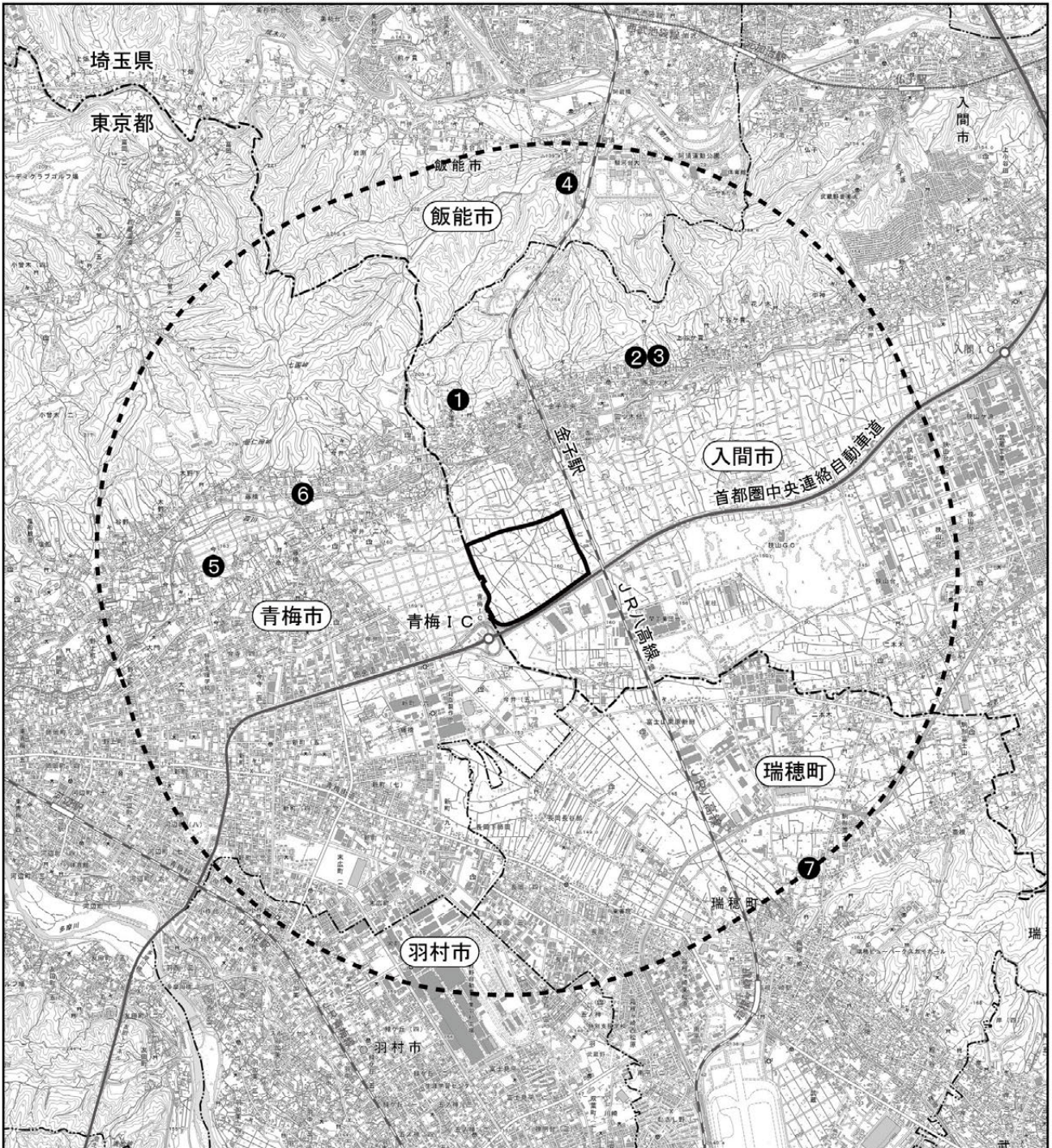
計画地及び周辺地域における巨樹及び巨木林の分布状況を表5.2.5-7及び図5.2.5-2に示す。計画地に巨樹・巨木の分布はなく、計画地周辺で比較的近い巨樹では北側に樹高25mのスギが生育している。

表5.2.5-7 計画地及び周辺の巨樹の状況

番号	所在地		樹種	樹幹 (cm)	樹高 (m)
1	入間市	木蓮寺	スギ	430	25
2	入間市	西三ツ木	スダジイ	330	11
3	入間市	寺竹	スダジイ	310	12
4	飯能市	阿須	ケヤキ	415	30
5	青梅市	今寺二丁目	エノキ	380	12
6	青梅市	今井一丁目	ケヤキ	430	37
7	瑞穂町	駒形富士山	ケヤキ	566	25

備考：番号は、図5.2.5-2に対応する。

出典：「第4回・第6回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林」（環境省ホームページ、自然環境調査Web-GIS）



この地図は「電子地形図25000」（令和5年6月調整、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡例






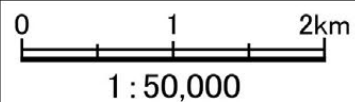
-  : 計画地
-  : 都県界
-  : 市町界
-  : 環境に影響を及ぼす範囲
(計画地敷地境界から3km)
-  : 巨樹

図5.2.5-2 巨樹・巨木林



(3) 生態系

計画地は平坦な地形で、台地上では農地（茶畑やそれ以外の畑）が広がり、一部に温室等の農業施設、梅や栗等の果樹や苗圃が点在する。また、計画地北側の東西を高圧電力鉄塔が横断し、南西部には養鶏場が存在する。計画地周辺も畑を中心に農耕地が広がっているが、計画地の北側には入間市道幹37号線南側に圏央道があり、南西側には圏央道の青梅I C、計画地東側には入間市道幹36号線が隣接して存在する。計画地周辺の北側には窪堀が東西に流れ、一級河川霞川と合流している。

計画地及び周辺における生態系の代表的な基礎生産者は、畑雑草群落、路傍・空地雑草群落であり、これらの環境を反映して一次消費者としてバッタ類などの昆虫類、二次消費者としてモズやホオジロ等の小型鳥類やトカゲ類の爬虫類、トンボ類などの昆虫類、高次消費者としてカラス類やサギ類等の農耕地にみられる鳥類、タヌキやイタチ等の哺乳類、アオダイショウなどの爬虫類の生息が推察され、これらの農耕地を生息環境とする種により生態系が構成されていると推察される。

生態系の上位性種としては、タヌキやイタチ等の哺乳類、カラス類やサギ類のような大型鳥類があげられる。計画地及び周辺における生態系は、農耕地を主体とした生態系が成立していると推察される。

5.2.6 景観、自然とのふれあいの場の状況

(1) 景観

① 地域景観の状況

計画地が位置する入間市は、埼玉県の南西部に位置し、市の北部には秩父山地より東にのびた加治丘陵が、南部には平野の中に孤立した狭山丘陵があり、北部に入間川、中央部に霞川、南部に不老川が横断し、特に、丘陵地で豊かな自然環境を保っている。

計画地及び周辺は、地形は概ね平坦であり、主として茶畑等の畑地が広がり、一部に工場や住宅が点在する。また、計画地及び周辺を高压電力鉄塔が横断し、南側に圏央道が東西に走り、南西側には圏央道の青梅ICが、その近辺に物流倉庫が隣接している。また、計画地周辺の北側には、加治丘陵の裾野を霞川が東西に流れ、その周辺に住宅地や商業施設等の市街地が広がっている。

このように計画地及び周辺の景観は、北側に丘陵地、周囲を農地、河川等の自然的要素と、南側に高規格道路の構造物や工場、住宅地といった人工的要素が混在している。

② 景観資源の状況

計画地周辺の景観資源の概要を表5.2.6-1(1)、(2)及び図5.2.6-1に示す。

計画地最寄りの景観資源としては、県の景観資源データベースシステムに登録されている「東金子・金子地区の茶畑風景」があり、約400haの一面に広がる茶畑は関東以北としては最大の規模と言われている。

表5.2.6-1(1) 計画地周辺の景観資源(自然的・歴史的景観資源)

所在地	名称	概要
入間市	桂川神社	「入間市景観50選」に選定されている。桂川神社は、その昔、この地が「桂の里」と呼んでいたのにちなんで名付けられたと伝えられており、杉木立に囲まれ、日当たりの良い境内にたつ社殿は、その荘厳さを感じさせる。
	金子駅と桜並木	「入間市景観50選」に選定されている。風情ある駅舎は、映画のロケーション等にも使われている。特に5月初旬のツツジに彩られた金子駅は絶景であり、春には通り一面の桜が淡い薄紅の色をまとい、人々の目をひきつけている。
	八高線沿線風景	「入間市景観50選」に選定されている。加治丘陵や茶畑の緑の風景の中で走る車両は、多くの鉄道ファンの憧れの場所にもなっている。
	茶畑と周辺風景	「入間市景観50選」に選定されている。約400haの一面に広がる茶畑は全国的にも珍しく、晩秋には赤富士と茶畑のコントラストが目をひき、「茶の花」は市の花として指定されている。
	東金子・金子地区の茶畑風景	埼玉県景観資源データベースに登録されている。「狭山茶」の主産地である入間市の茶畑は、加治丘陵南側の台地に展開している。約400haの一面に広がる茶畑は関東以北としては最大の規模と言われ、八十八夜を過ぎる頃は一斉に一番茶の茶摘み光景が随所に見られる。

表5.2.6-1(2) 計画地周辺の景観資源(自然的・歴史的景観資源)

所在地	名称	概要
入間市	豊泉寺の庭園	「入間市景観50選」に選定されている。加治丘陵の木立を後景に、石組みと樹木が池に映え、特に、ツツジが咲く4月は見ごろとなる。
	茶どころ通りとその沿道	「入間市景観50選」に選定されている。一面の茶畑の中を続くこの道からは、冬の真っ白な富士山、奥多摩、丹沢の山並みが展望できる。
瑞穂町	さくら公園	公園の中央に大きな桜があることから「さくら公園」と命名されており、この公園には、瑞穂町のソメイヨシノの標本木がある。
	松原中央公園	ウォーキングや遊具が設置してある、大きな公園で、花見をしながら、ウォーキングができる。また、立派な枝垂桜もみられる。
青梅市	今寺天皇塚水田	「関東の富士見百景」に選定されている。藤川沿いの水田耕作地域で、弥生時代に端を発する稲作文化を伝えている。春には、桃色のれんげの花が水田を染める。霞丘陵や奥多摩の山並み、澄みきった空の下では富士山が望める。

出典：「入間市景観50選」(入間市ホームページ)
 「埼玉県景観資源データベースシステム」(埼玉県ホームページ)
 「関東の富士見百景」(国土交通省関東地方整備局ホームページ)

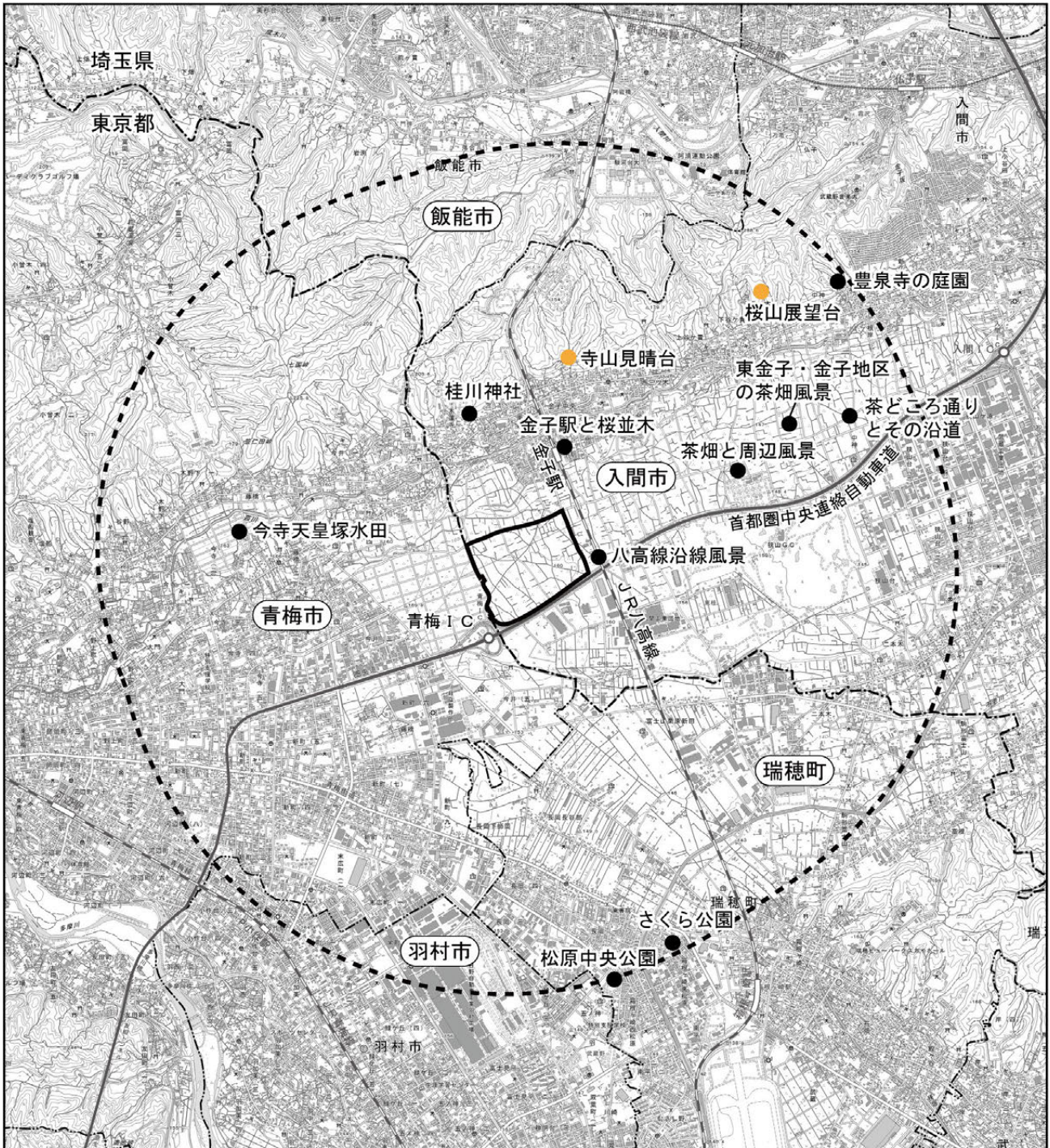
③ 主要眺望地点の分布状況

計画地及び周辺を眺望する不特定多数の人に利用される地点を表5.2.6-2及び図5.2.6-1に示す。計画地及び周辺は、北側の加治丘陵から眺望が望める。

表5.2.6-2 計画地及び周辺の主要眺望地点

所在地	名称	概要
入間市	寺山見晴台	加治丘陵の稜線上、山頂付近より手前の高養寺側の傾斜地から見晴らしが良くなり、眼下に八高線や金子地区の街並みや茶畑等がみられる。
	桜山展望台	「入間市景観50選」に選定されている。展望台は標高189メートルの位置にあり、晴れた日には、富士山、丹沢、秩父連山、筑波山、都内の高層ビル群が望め、眼下には、入間市の地場産業である茶の畑が広がる。

出典：「入間市景観50選」(入間市ホームページ)

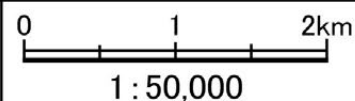


この地図は「電子地形図25000」（令和5年6月調整、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡例

- : 計画地
- : 景観資源
- : 都県界
- : 主要眺望地点
- : 市町界
- : 環境に影響を及ぼす範囲
(計画地敷地境界から3km)

図5.2.6-1 景観資源及び主要眺望地点



(2) 人と自然とのふれあいの場

計画地及び周辺における人と自然とのふれあいの場の分布状況は、表5.2.6-3及び図5.2.6-2に示すとおりである。

入間市の観光ガイドマップやパンフレットでは、7つのコースからなる「元気な入間 ふれあい茶ん歩道」が紹介されており、四季折々で表情豊かな自然やみどり、味わい深い郷土の歴史や文化等入間の魅力を伝えている。特に、「4. 加治丘陵を楽しむ」や「狭山茶」の主産地である入間市の茶畑や緑豊かな加治丘陵を歩く「5. 茶畑と丘陵を歩く」等が計画地周辺で散歩道として整備されている。

表5.2.6-3 計画地周辺の主要な自然とのふれあいの場

所在地	名称	概要
入間市	金子駅前公園	公園内は桜の木立ちに囲まれており、線路脇には大きく枝を張った桜の老木が並び、春の開花時期には桜がとてもきれいだである。
	桂の里公園	公園内に池や木立ちに囲まれて芝生でパターゴルフ等が楽しめる。
	ふれあい茶ん歩道 (4. 加治丘陵を楽しむ)	加治丘陵の旧サイクリングコースを歩くコースであり、桜山展望台からは、金子台に広がる茶畑、秩父・多摩の山並み、富士山や関東平野等、360度の大自然が楽しめる。
	ふれあい茶ん歩道 (5. 茶畑と丘陵を歩く)	関東以北では最大規模と言われる金子台の広大な茶畑と、さいたま緑のトラスト基金で保全が決まった加治丘陵の核心部「唐沢トラスト地」を歩くコースとなっている。
飯能市	トーヤ・ベンソンあけぼの子ども森公園	広さは約7.6ha。公園全体が山の斜面に作られていて、いくつもの建物を結ぶ遊歩道が整備されており、起伏に富んだ園路を歩きながら自然に触れることができる。不思議な形をした橋や山の奥に分け入ると滝も見ることができる。
	駒形富士見コース 松原A・Bコース	箱根ヶ崎駅から、狭山池公園やさやま花多来里の郷を周るコースとなっている。 松原Aコースは松原中央公園から、さくら公園、みずほエコパーク等を周る。Bコースは同じ松原中央公園から松原ひがし公園等を周るコースとなっている。
青梅市	水窪公園	公園内に藤棚や桜の木があり、春にはとてもきれいな藤の花や桜が見られる。
	今井コース	今井市民センターから霞川沿いを歩きながら薬王寺を目指すコース。薬王寺は四季に応じてアジサイやつつじ等の多くの花々が大変きれいに咲く。
	大門・今寺コース	大門市民センターからスタートして、整備された霞川沿いを歩く。途中で藤橋城跡に寄り、大きく開けた田園では、天気の良い日には遠くに関東富士見百景に選ばれた富士山を見ることができる。
	新町コース	わかぐさ公園からスタートして市内の大きな公園を回りながら、平松緑地を目指す。道中には大きな公園や休憩ができるお店がたくさんある。
羽村市	富士見公園・武蔵野公園コース	スポーツセンターから栄緑地公園、富士見公園を周るコースとなっている。
	日野自動車羽村工場周回コース	富士見公園から日野自動車羽村工場周回するコースとなっている。

5.2.7 文化財その他の生活環境の状況

(1) 指定文化財

計画地周辺の指定文化財は、表5.2.7-1(1)～(3)及び図5.2.7-1に示すとおりである。計画地周辺には、入間市指定の文化財として、「4 西三ツ木の高札場」、「5 金子氏一族の宝篋印塔付位牌」、「9 百万遍念仏数珠一式」、「10 寺竹白鬚神社の懸仏」等がある。

表5.2.7-1(1) 指定文化財(都、県指定)

番号	種別	名称	所在地
1	旧跡	鈴法寺跡	青梅市新町1-22-18
2	史跡	青梅新町の大井戸	青梅市新町2-27
3	有形文化財	旧吉野家住宅	青梅市新町1-21-9

表5.2.7-1(2) 指定文化財(市、町指定)

番号	種別	名称	所在地
4	史跡	西三ツ木の高札場	入間市西三ツ木41-1
5	史跡	金子氏一族の宝篋印塔付位牌	入間市木蓮寺
6	無形民俗文化財	上谷ヶ貫の獅子舞	入間市上谷ヶ貫地区
7	有形文化財	栗原家文書	入間市
8	有形文化財	滝澤家文書	入間市
9	有形民俗文化財	百万遍念仏数珠一式	入間市西三ツ木
10	有形文化財	寺竹白鬚神社の懸仏	入間市寺竹852
11	有形文化財	八幡神社の懸仏	入間市上谷ヶ貫679
12	史跡	二本木上宿の道標	入間市二本木長田交差点
13	史跡	中神の百万遍供養塔道標	入間市中神
14	名勝	豊泉寺の庭園	入間市中神681
15	有形民俗文化財	石造閻魔大王像	入間市二本木1255-1
16	有形文化財	三輪神社の天井絵、幟原書および旧本殿付幟、旧本殿棟札	入間市中神345ほか
17	無形民俗文化財	西三ツ木ばやし	入間市西三ツ木地区
18	有形文化財	木造観音菩薩立像	入間市二本木1255-1
19	有形文化財	青石塔婆(2基)	青梅市今寺1-539
20	有形文化財	青石塔婆(2基)	青梅市藤橋2-101
21	有形文化財	地藏半跏像および胎内短冊	青梅市今寺1-540-1
22	天然記念物	一里塚のエノキ	青梅市今寺2-504
23	有形文化財	銅鐘	青梅市今井1-2520
24	史跡	報恩寺	青梅市今寺1-540-1
25	史跡	藤橋城跡	青梅市藤橋2-169-1ほか

表5.2.7-1(3) 指定文化財(市、町指定)

番号	種別	名称	所在地
26	史跡	今井城跡	青梅市今井1-552-1ほか
27	史跡	薬王寺	青梅市今井1-2520
28	有形文化財	入会地論争裁許地図	青梅市野上町2-21-5
29	史跡	今井氏の墓	青梅市今井2-1033の一部
30	有形文化財	木額	青梅市新町2-20-10
31	有形文化財	地藏堂	青梅市今寺1-540-1
32	有形文化財	市川家日記(7冊)	青梅市小曾木1丁目
33	有形文化財	浮島神社の懸仏	青梅市今井1-130
34	有形文化財	古文書	瑞穂町長岡長谷部
35	有形文化財	古文書	瑞穂町長岡長谷部
36	有形文化財	古文書	瑞穂町駒形富士山
37	有形文化財	古文書	瑞穂町長岡長谷部
38	天然記念物	五輪様のかきの木	瑞穂町駒形富士山376

出典：「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス」(東京都教育委員会ホームページ)

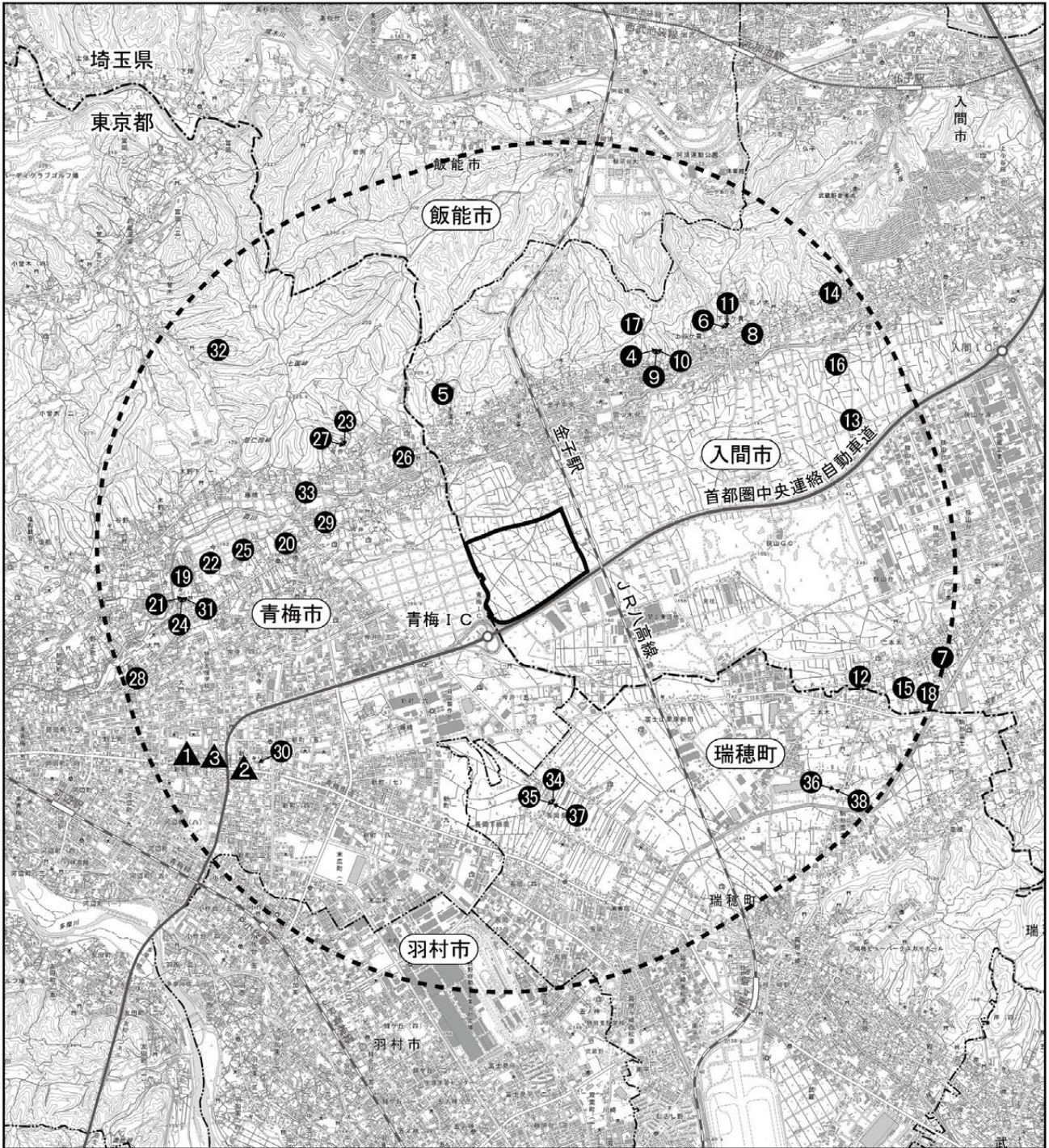
「いるまの文化財」(入間市ホームページ)

「飯能市指定文化財一覧」(飯能市ホームページ)

「青梅市の文化財」(青梅市ホームページ)

「羽村市の文化財」(羽村市ホームページ)

「瑞穂町の文化財」(瑞穂町ホームページ)

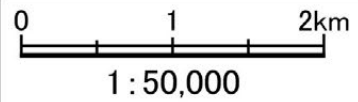


この地図は「電子地形図25000」（令和5年6月調整、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡例

- : 計画地
- : 都県界
- : 市町界
- : 環境に影響を及ぼす範囲
(計画地敷地境界から3km)
- : 都・県指定文化財
- : 市・町指定文化財

図5.2.7-1 指定文化財



(2) 埋蔵文化財

計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地は、表5.2.7-2(1)、(2)及び図5.2.7-2に示すとおりである。計画地に係る埋蔵文化財包蔵地としては、計画地南東側を含む「15 西武蔵野遺跡」がある。また、近隣では「1 谷ノ上遺跡」、「3 桂橋遺跡」、「4 南内野遺跡」等がある。

表5.2.7-2(1) 計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地

番号	市町	遺跡名	種別	時代
1	入間市	谷ノ上遺跡	集落跡	縄文
2		中桂遺跡	旧石器	旧石器時代
3		桂橋遺跡	集落跡	縄文
4		南内野遺跡	旧石器	旧石器時代
5		箭ノ根ヶ原遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
6		杓子ヶ谷戸遺跡	集落跡	縄文
7		裏山遺跡	集落跡	縄文
8		根岸窯跡	窯跡	奈良・平安
9		金子山遺跡	散布地	縄文・奈良・平安
10		西金子遺跡	集落跡	縄文
11		入戸窯跡	窯跡	奈良・平安
12		蓬谷遺跡	窯跡・散布地	縄文・奈良・平安
13		北真込谷窯跡	窯跡	奈良・平安
14		東武蔵野遺跡	旧石器	旧石器時代
15		西武蔵野遺跡	旧石器	旧石器時代
16		中ノ欠上遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
17		東狭山遺跡	集落跡	縄文
18		狭山遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
19		上ノ欠下遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
20		東原遺跡	集落跡	縄文
21		内野遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
22	飯能市	要害沢遺跡	散布地	奈良
23	青梅市	K-26遺跡	包蔵地	縄文（前期～後期）・古墳時代 ・奈良・平安
24		霞台（K-27・28・29）遺跡	集落	旧石器時代・縄文（前期～中期） ・弥生（後期）・古墳時代・奈良 ・平安・中世
25		下前（K-19）遺跡	包蔵地	縄文（前期～後期）・古墳時代 ・奈良・平安
26		K-20遺跡	包蔵地	縄文（前期）
27		真浄寺東遺跡	包蔵地	奈良・平安
28		K-25遺跡	包蔵地	縄文（中期～後期）・奈良・平安
29		K-23遺跡	包蔵地	古墳時代・奈良・平安
30		K-24遺跡	包蔵地	弥生・古墳時代
31		K-33遺跡	包蔵地	奈良・平安
32		K-30遺跡	包蔵地	縄文（中期）・古墳時代・奈良・平安
33		神明原遺跡	包蔵地	縄文（前期）・古墳時代・奈良・平安

表5.2.7-2(2) 計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地

番号	市町	遺跡名	種別	時代
34	青梅市	K-31遺跡	包蔵地	縄文（中期）・弥生・古墳時代・奈良・平安
35		天皇塚遺跡	包蔵地	時代不明
36		藤橋城城の腰（K-32）遺跡	集落	縄文（中期～後期）・弥生・古墳時代・奈良・平安
37		藤橋城跡	城館	中世
38		城ヶ崎遺跡	包蔵地	旧石器時代・縄文（中期）・古墳時代・奈良・平安・中世
39		丸山（K-34・35・36）遺跡	集落	旧石器時代・縄文（前期～後期）・古墳時代・奈良・平安
40		天神平（K-38）遺跡	包蔵地	縄文（前期）
41		山根遺跡	包蔵地・その他（水場）	縄文（中期～後期）・平安
42		鍛冶屋敷跡遺跡	屋敷	中世
43		城の腰（K-39）遺跡	集落・城館	旧石器時代・縄文（早期～後期）・奈良・平安・中世
44		今井城（K-40）遺跡	包蔵地	縄文（前期～後期）
45		今井城跡	城館	中世
46		倭林遺跡	包蔵地	縄文（中期）
47		今井馬場（K-37）遺跡	包蔵地	縄文（中期）・弥生・古墳時代
48		今井堀ノ内遺跡	城館	中世
49		原今井（K-41）遺跡	包蔵地	縄文（中期～後期）・奈良・平安
50		塚（2基）	塚	時代不明
51		新町の大井戸	大井戸	近世
52		西間原遺跡	包蔵地	縄文（中期）・平安
53		丸山の塚	その他（塚）	時代不明
54		竹の下遺跡	包蔵地・集落・生産関連	縄文（前期～後期）・古墳時代・奈良・平安・中世・近世

出典：「埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ」（埼玉県教育局ホームページ）

「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス」（東京都教育委員会ホームページ）

5.2.8 一般環境中の放射性物質に係る環境の状況

(1) 空間放射線量の状況

計画地及び周辺における空間放射線量の測定結果は、表5.2.8-1及び図5.2.8-1に示すとおりである。

計画地及び周辺における空間放射線量は、0.032～0.070 μ Sv/hであり、環境省が示す基準値（地表100cm：0.23 μ Sv/h）をいずれも下回っている。

表5.2.8-1 計画地及び周辺における空間放射線量測定結果

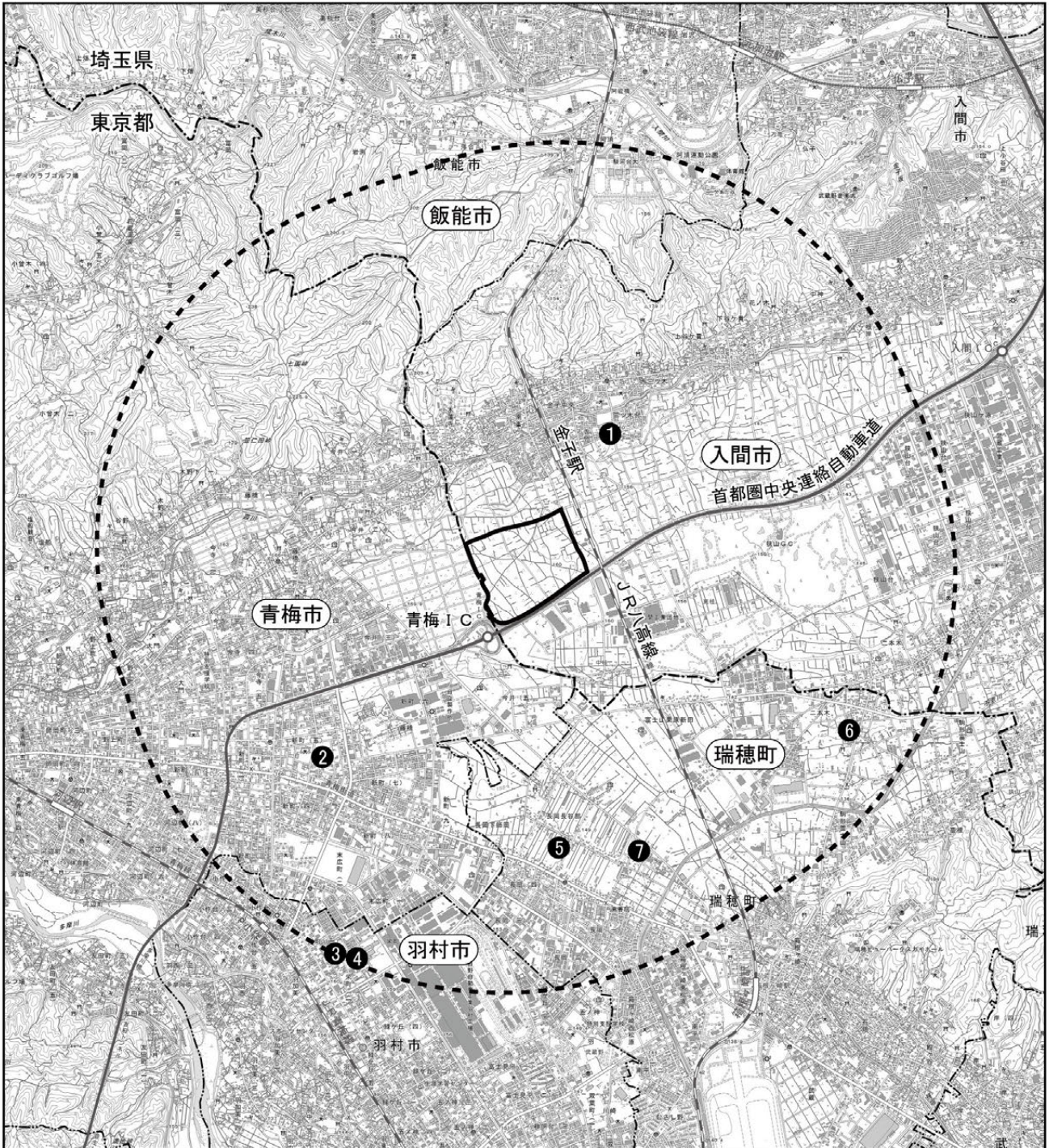
番号	市町	測定地点	測定結果 (μ Sv/時)	測定日	測定位置
1	入間市	金子支所 ①支所入口前(タイル)	0.070	R4.09.26	地表 50cm
			0.064		地表 100cm
		金子支所 ②公民館駐車場花壇(土)	0.035	R4.09.26	地表 50cm
			0.032		地表 100cm
2	青梅市	新町小学校	0.04	R6.01.25	地表 100cm
3	羽村市	栄学童クラブ	0.066	R4.11.24	地表 5cm
			0.059		地表 50cm
			0.058		地表 100cm
4	羽村市	武蔵野公園	0.053	R4.10.26	地表 5cm
			0.052		地表 50cm
			0.053		地表 100cm
5	瑞穂町	瑞穂第二小学校校庭	0.05	R5.12.01	地表 5cm
			0.06		地表 100cm
6	瑞穂町	瑞穂第三小学校校庭	0.06	R5.12.01	地表 5cm
			0.06		地表 100cm
7	瑞穂町	瑞穂第二中学校校庭	0.04	R5.12.01	地表 5cm
			0.05		地表 100cm

出典：「原発事故に伴う公共施設空間放射線量の測定結果（市役所・支所）」（入間市環境経済部ホームページ）

「青梅市内の空間放射線量定期定点測定結果162」（青梅市環境部ホームページ）

「大気空間放射線量測定結果」（羽村市産業環境部ホームページ）

「大気中の放射線量測定結果」（瑞穂町ホームページ）



この地図は「電子地形図25000」（令和5年6月調整、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡例






-  : 計画地
-  : 都県界
-  : 市町界
-  : 環境に影響を及ぼす範囲
(計画地敷地境界から3km)
-  : 空間放射線量測定地点

図5.2.8-1 空間放射線量測定地点

